

ワークショップ報告会(2月4日)説明用資料

ワークショップの事業主旨・概要

「新しい学校づくり推進基本計画」において、学校配置に係る地域との合意形成プロセスの手法等を提示するにあたり、より実効性の高いプロセスとするため、モデル地域を選定し、学校・地域関係者等による検討組織を設け、学校配置案等の検討(意見交換・ワークショップ)を行う。モデル地域での検討経過は「新しい学校づくり検討委員会」で共有し、プロセスの検証・見直しを経て、「新しい学校づくり推進基本計画」に反映する。

対象地域 → 富水・桜井地域を選定

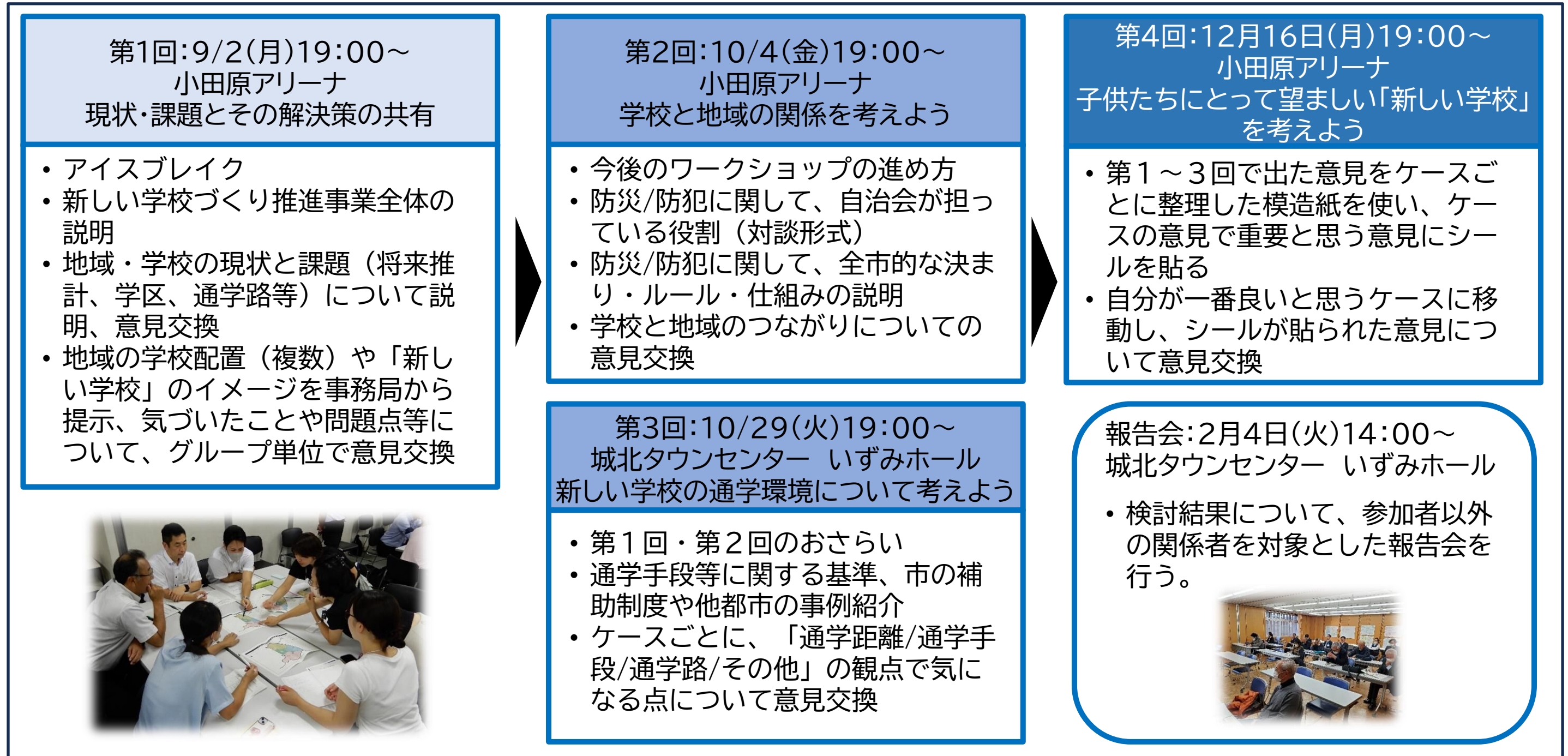
	中央・片浦	富水・桜井	川東	橘
対象校数	小学校 10 中学校 4	小学校 4 中学校 2	小学校 9 中学校 4	小学校 2 中学校 1
自治会(連合)の数	13	3	8	2
自治会(連合)区域との不整合(小学校)	三の丸 新玉 足柄 芦子 山王 久野 町田	富水 桜井 東富水 報徳	下府中 国府津 酒匂 矢作 豊川 富士見	なし
分散進学対象校(小学校)	新玉 芦子		豊川	

ワークショップの開催概要

■ 参加メンバー

【参加メンバー】 自治会連合会・地域関係者:11人 小・中学校PTA:5人 小・中学校校長:6人 公募市民:2人	【ファシリテーター】 工学院大学 遠藤 新 教授 工学院大学 大学院生、学生	【事務局】 教育部(教育総務課、保険給食課、教育指導課) 地域政策課 防災対策課
---	---	--

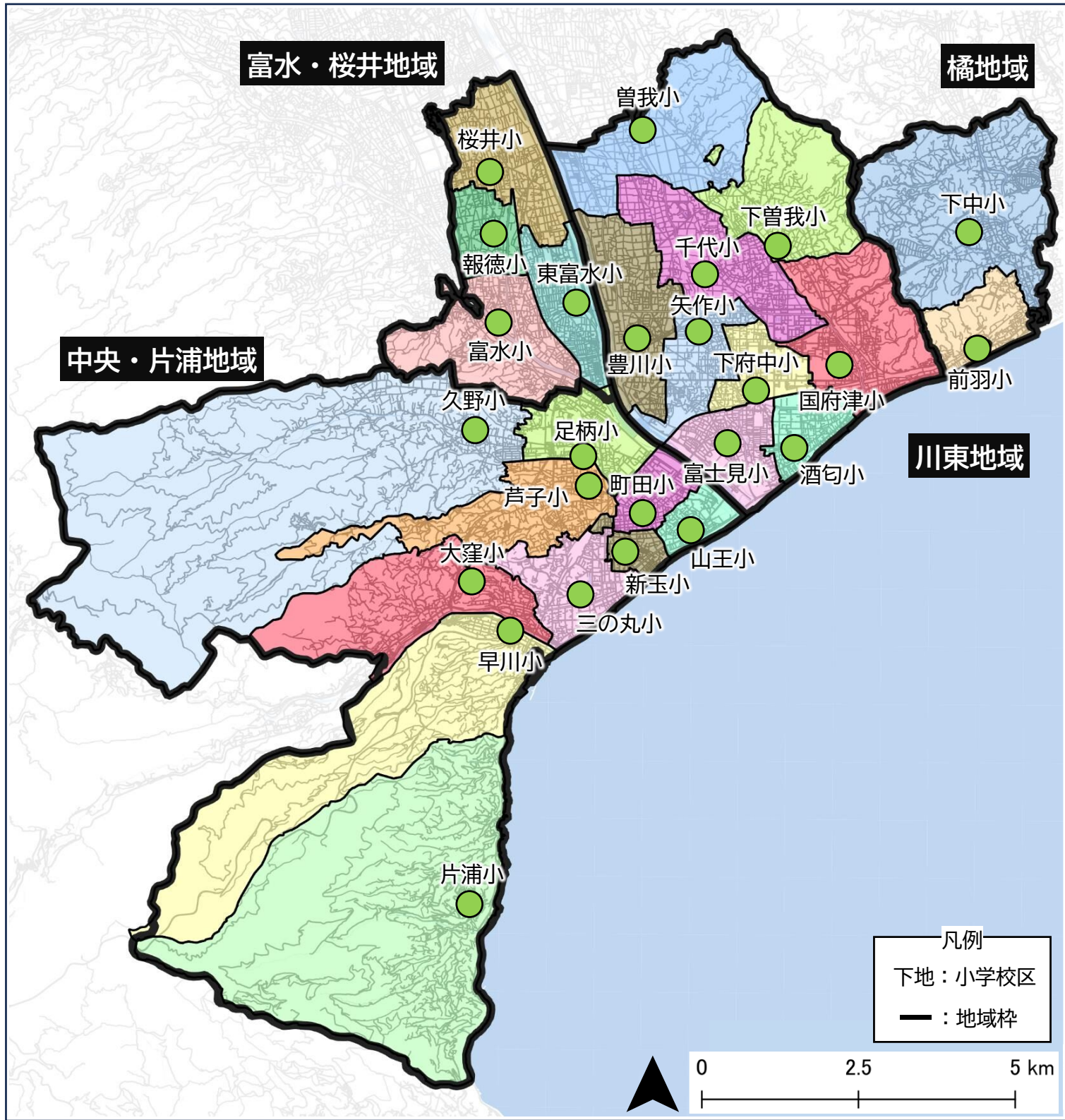
■ 検討プロセス



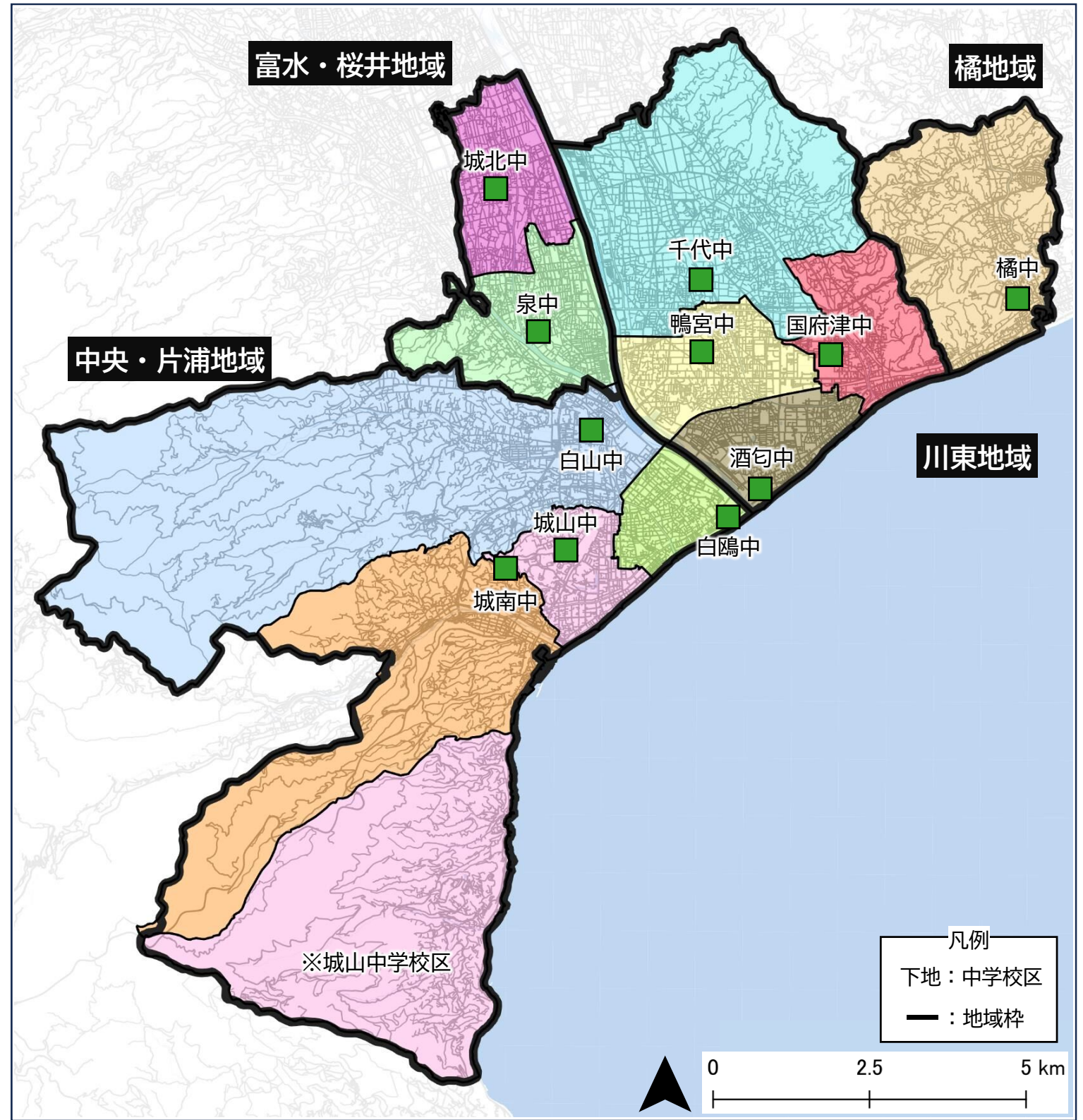
東富水・富水・桜井地区の学校の現状と課題

学校配置

小学校区



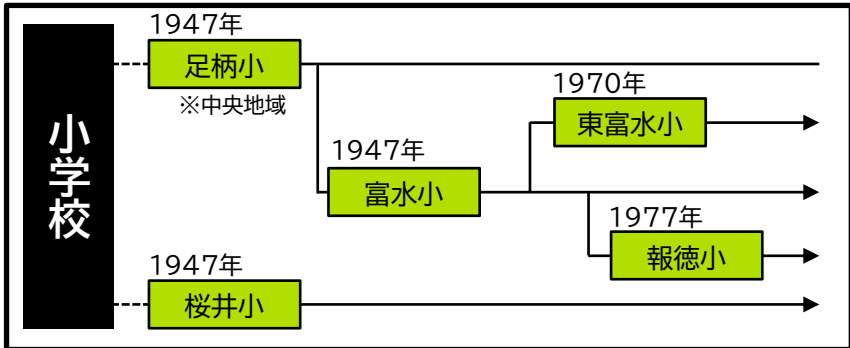
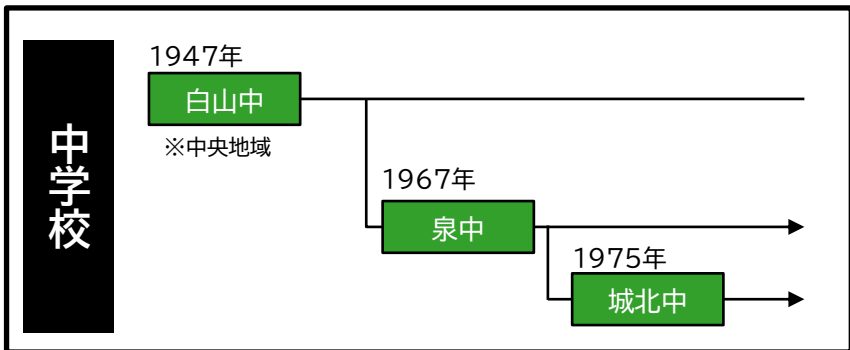
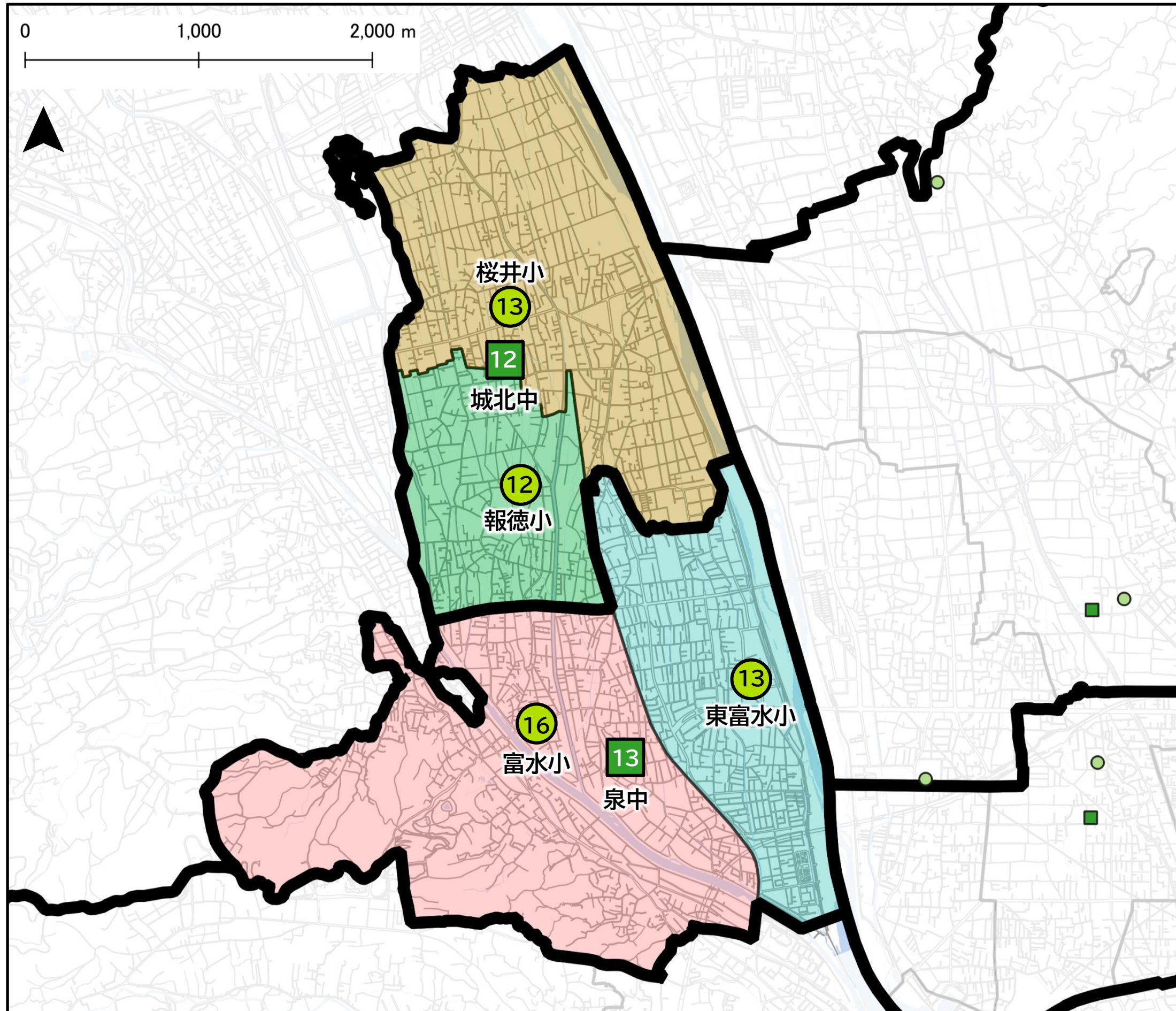
中学校区



学校配置

小学校・中学校配置図

学校の変遷



凡例

- 中学校区 (黒い太線)
- 各下地の色 小学校区 (色分け)
- 学級数 (2024年5月1日現在)
 - 18 (緑丸)
 - 14 (緑角)
- 小・中学校 12学級以上 (緑丸)
- 小学校 7~11学級 (黄丸)
- 中学校 4~11学級 (黄角)
- 小学校 6学級以下 (赤丸)

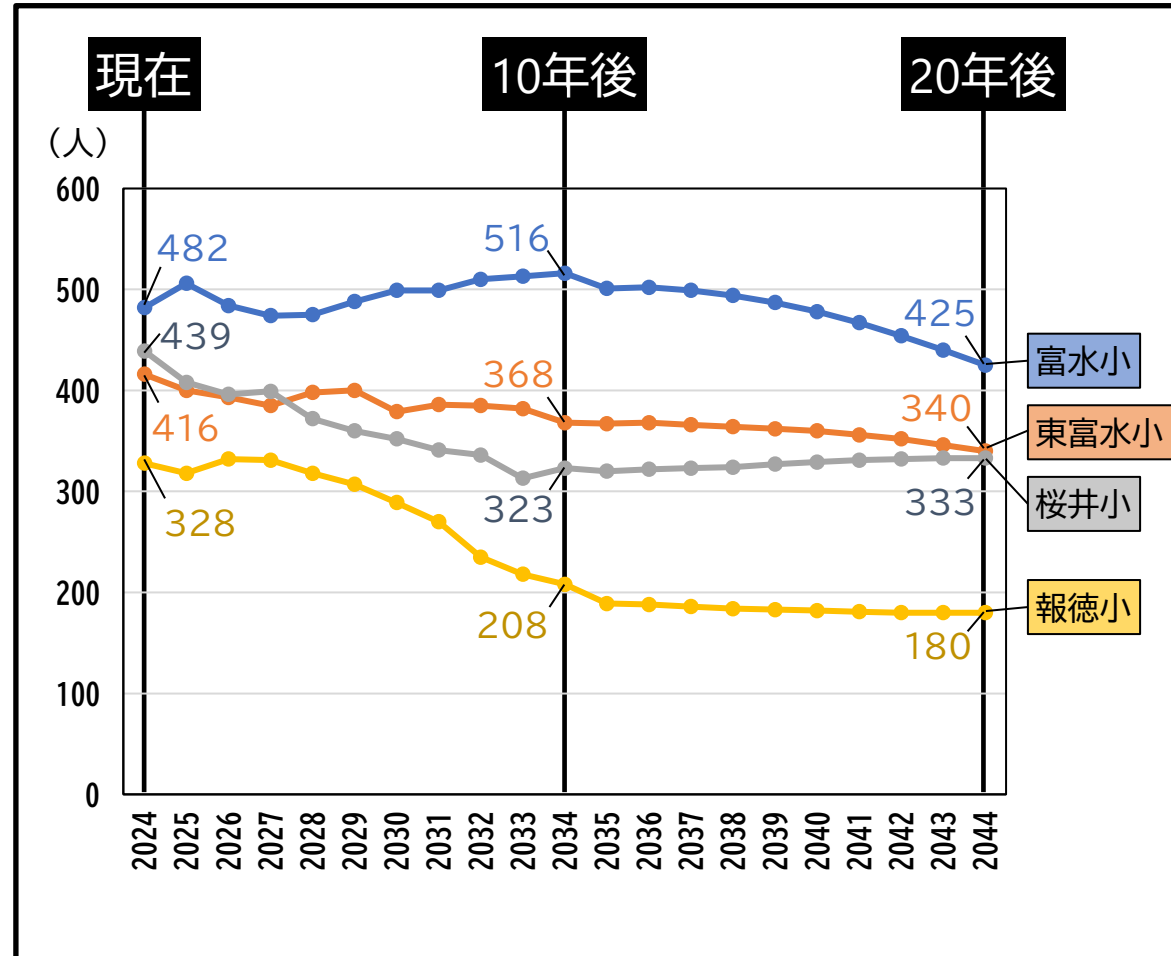
将来推計

将来推計結果

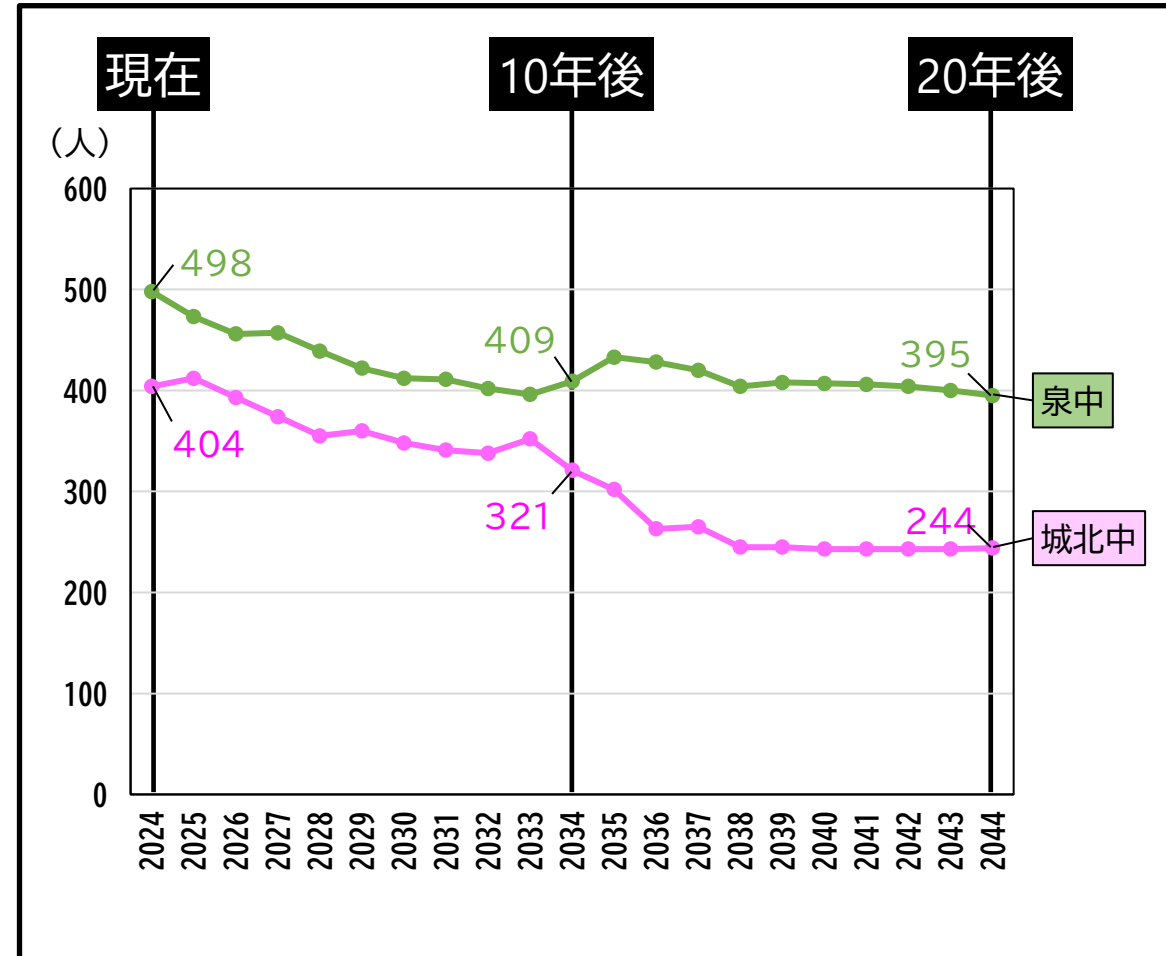
学校名	区分	現在										10年後										20年後			
		2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	2044			
中学	泉中	児童数	498	473	456	457	439	422	412	411	402	396	409	433	428	420	404	408	407	406	404	400	395		
		学級数	13	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12		
小学校	富水小	児童数	482	506	484	474	475	488	499	499	510	513	516	501	502	499	494	487	478	467	454	440	425		
		学級数	16	17	16	16	16	16	17	17	18	18	18	18	18	18	18	17	16	15	14	13	13		
	東富水小	児童数	416	400	393	385	398	400	379	386	385	382	368	367	368	366	364	362	360	356	352	346	340		
		学級数	13	13	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12		
中学	城北中	児童数	404	412	393	374	355	360	348	341	338	352	321	302	263	265	245	245	243	243	243	243	244		
		学級数	12	12	11	10	9	9	9	9	9	9	8	8	7	7	6	6	6	6	6	6	6		
小学校	桜井小	児童数	439	408	396	399	372	360	352	341	336	313	323	320	322	323	324	327	329	331	332	333	333		
		学級数	13	12	12	13	13	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12		
	報徳小	児童数	328	318	332	331	318	307	289	270	235	218	208	189	188	186	184	183	182	181	180	180	180		
		学級数	12	12	12	12	12	12	11	10	9	8	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6		

城北中学校区
 ・城北中は2034年頃、報徳小は2030年頃小規模校となる見通し。

児童数



生徒数



凡例
 小学校
 ■: 7~11学級
 ■: 6学級以下
 中学校
 ■: 4~8学級
 ■: 3学級以下

敷地状況

【泉中】



- 一番古い校舎の築年数 : 築56年
- 敷地面積 : 19,147m²

【富水小】



- 一番古い校舎の築年数 : 築57年
- 敷地面積 : 17,284m²

【東富水小】



- 一番古い校舎の築年数 : 築53年
- 敷地面積 : 12,810m²

敷地状況

【城北中】



- 一番古い校舎の築年数 : 築48年
- 敷地面積 : 19,380m²

【桜井小】



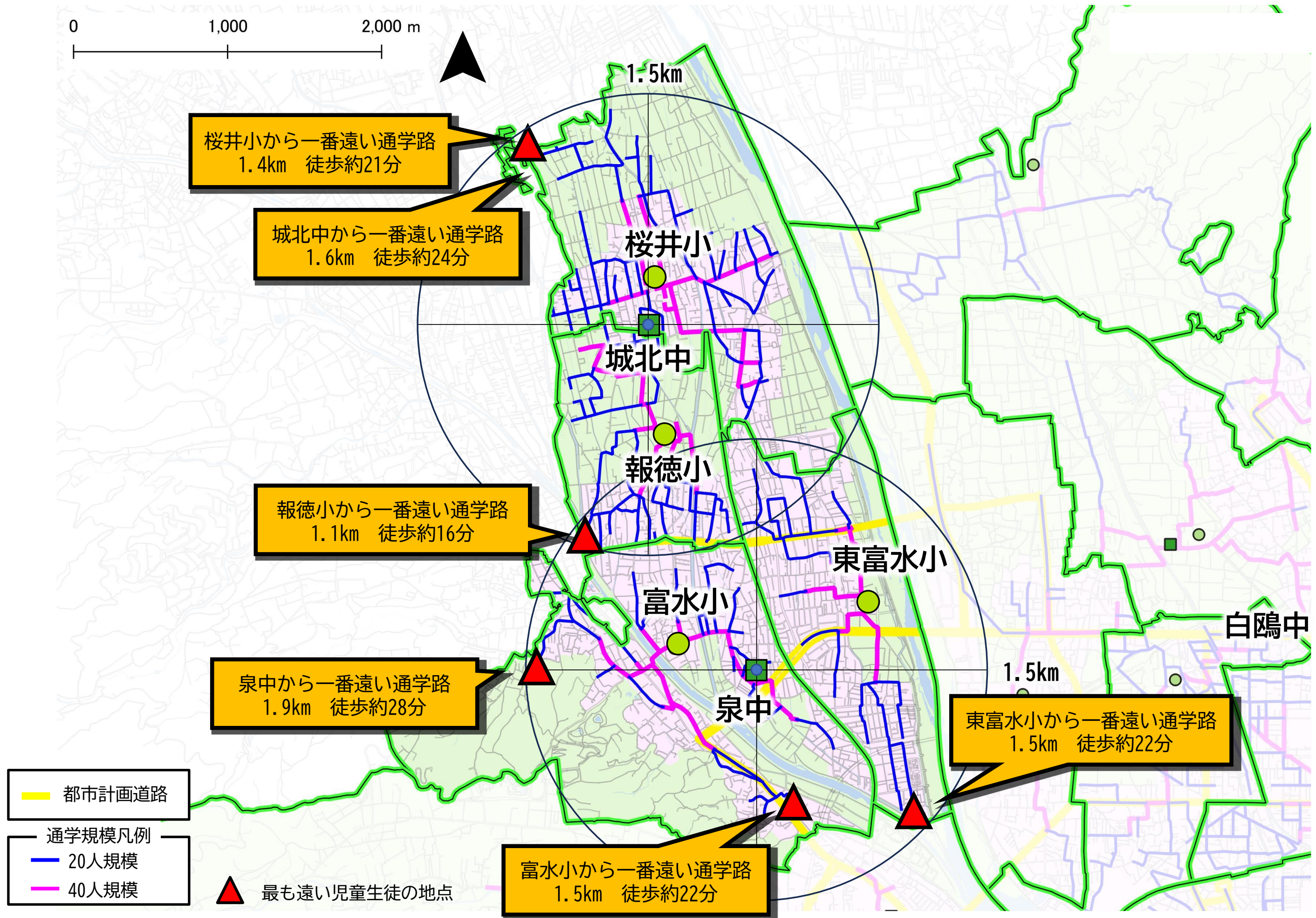
- 一番古い校舎の築年数 : 築56年
- 敷地面積 : 13,926m²

【報徳小】



- 一番古い校舎の築年数 : 築46年
- 敷地面積 : 16,935m²

通学区域、通学距離



※通学時間について: 子供の歩く速度(分速67m)で算出
 出典: 町田市(2023年度教育委員会 第7回定例会 2025年度学校統合予定校等の保護者に対する通学方法、学区外通学等の周知について)

地域状況

ハザード

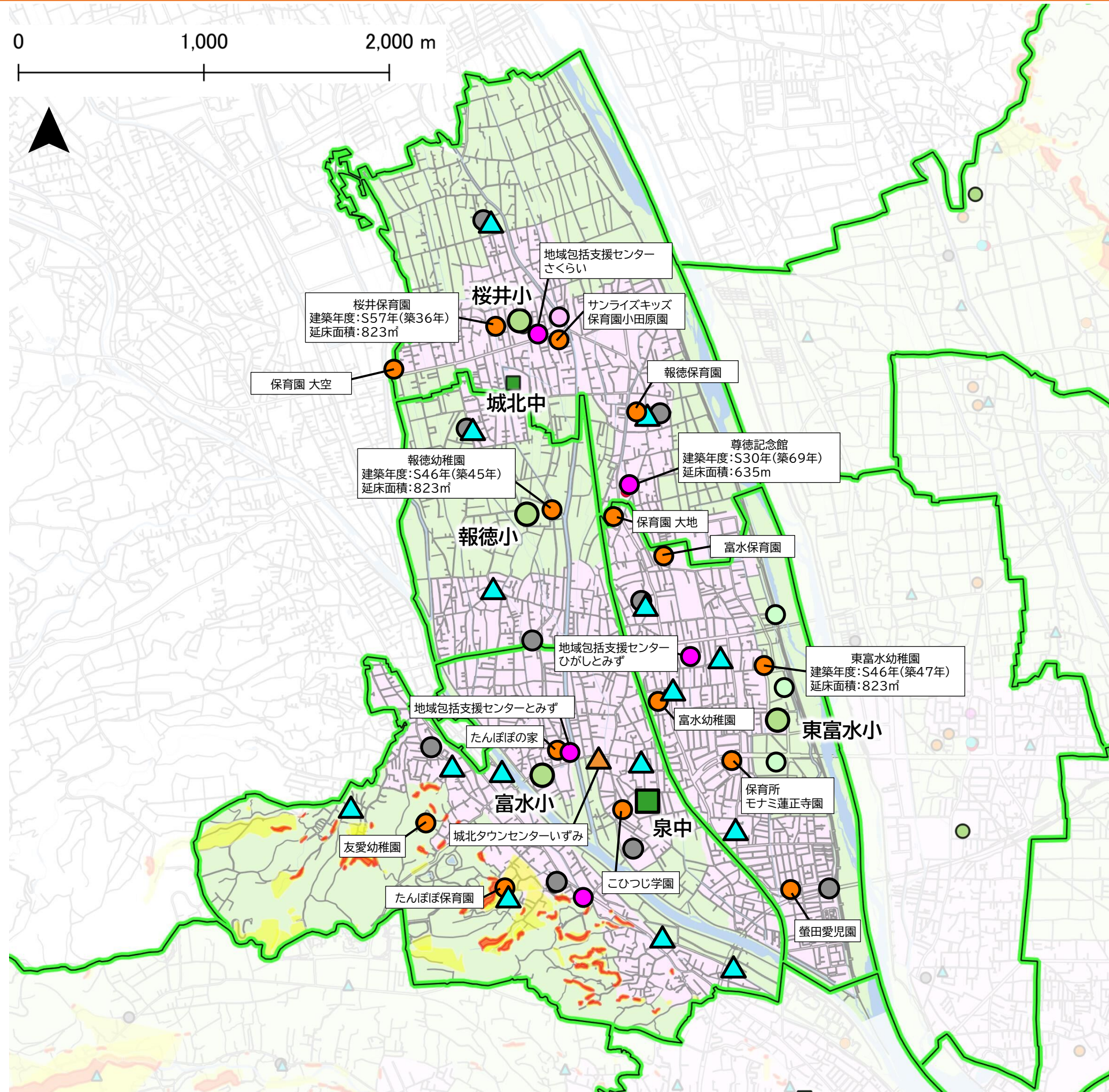
- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 津波浸水エリア
- 河川浸水エリア

都市計画区域

- 市街化区域
- 市外化調整区域

公共施設

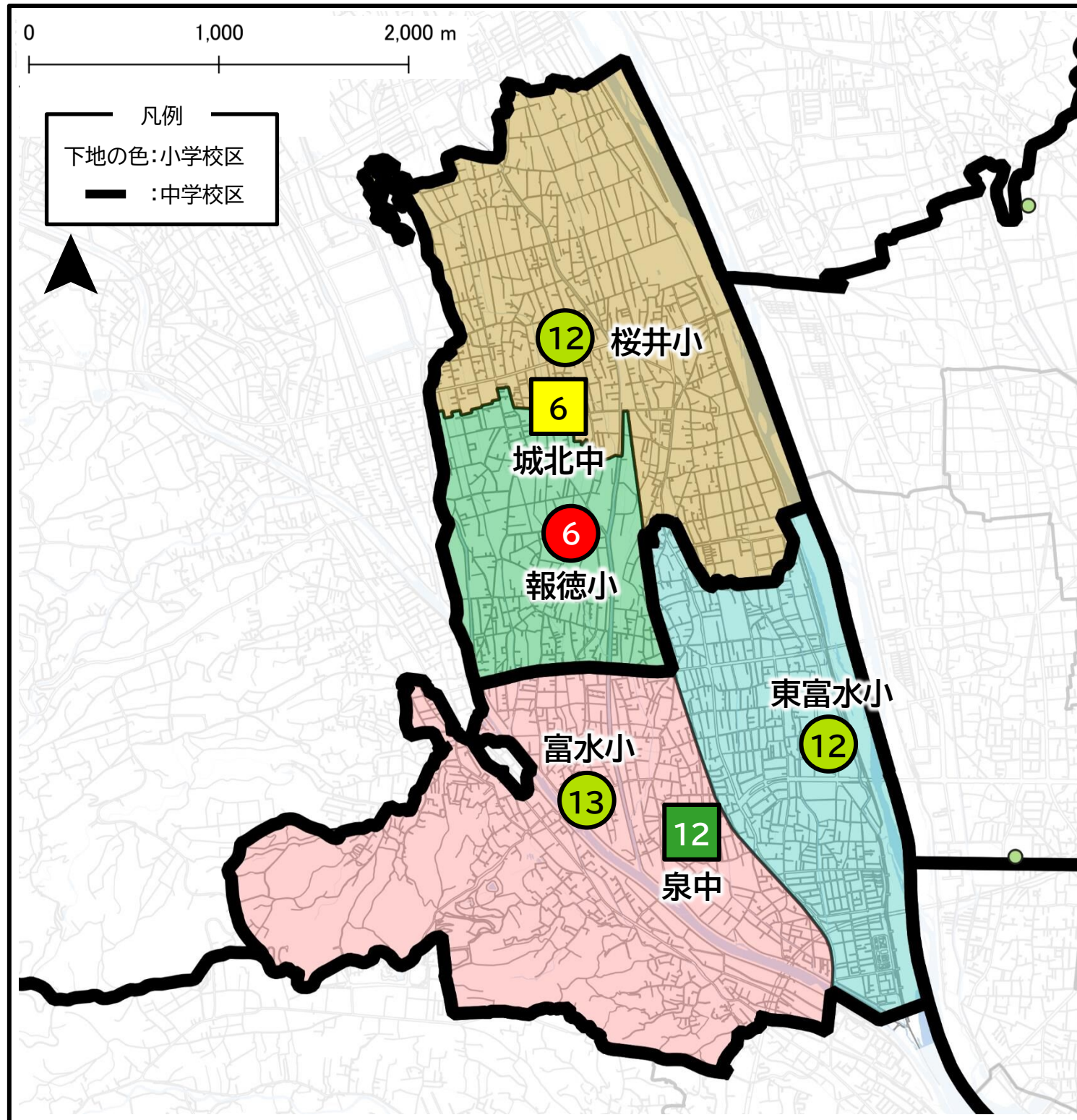
- 公民館
- コミュニティセンター
- 図書館・博物館
- 生涯学習施設
- スポーツ施設
- 小学校
- 中学校
- 保育園・幼稚園
- 子育て支援施設
- 福祉施設
- 地域包括支援センター
- 市役所・窓口
- 消防団



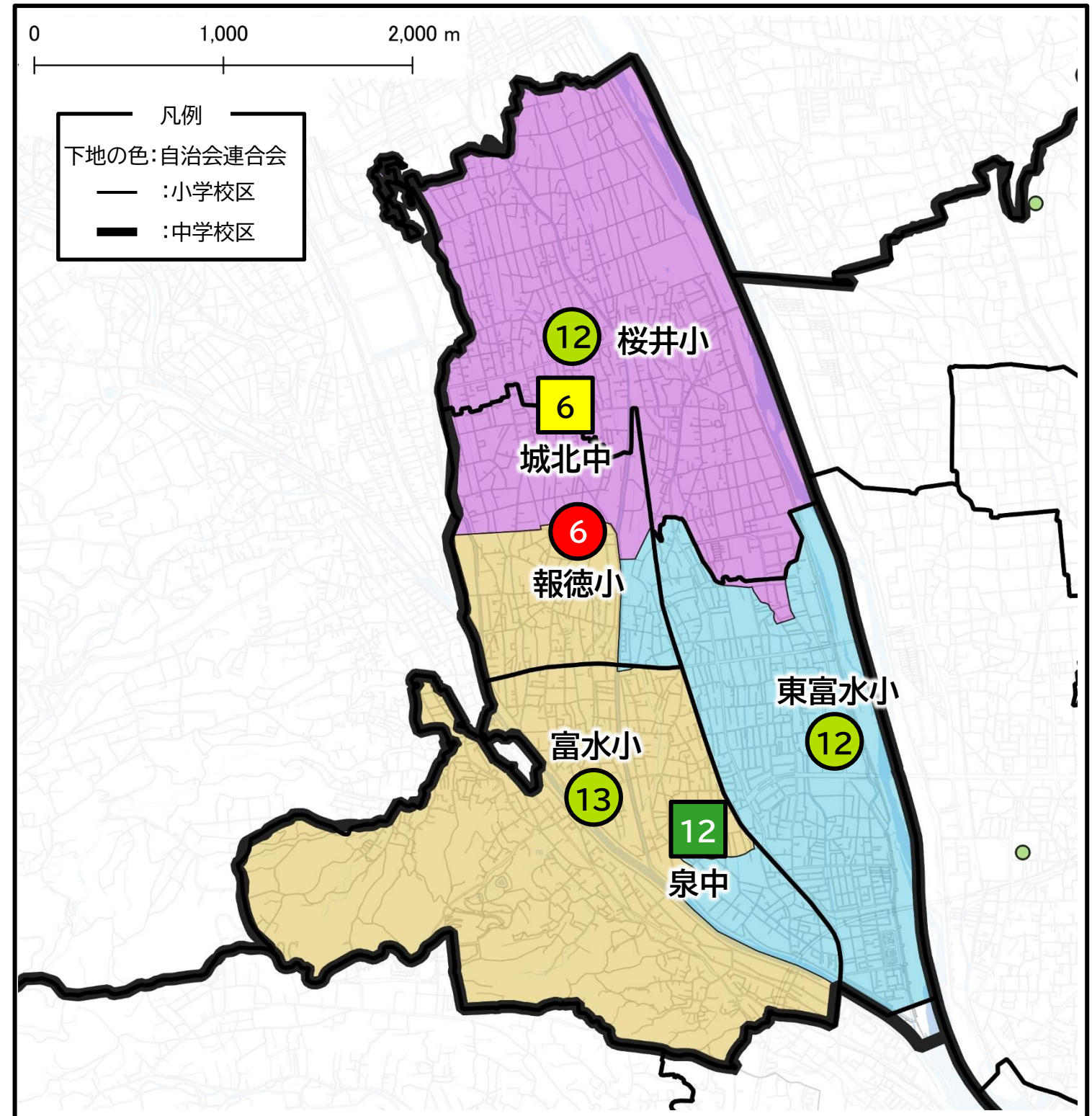
※公共施設の延床面積、建築年度は、小田原市公共施設再編基本計画（2019年3月）または小田原市ホームページによる。

東富水・富水・桜井地区の学校配置の将来像

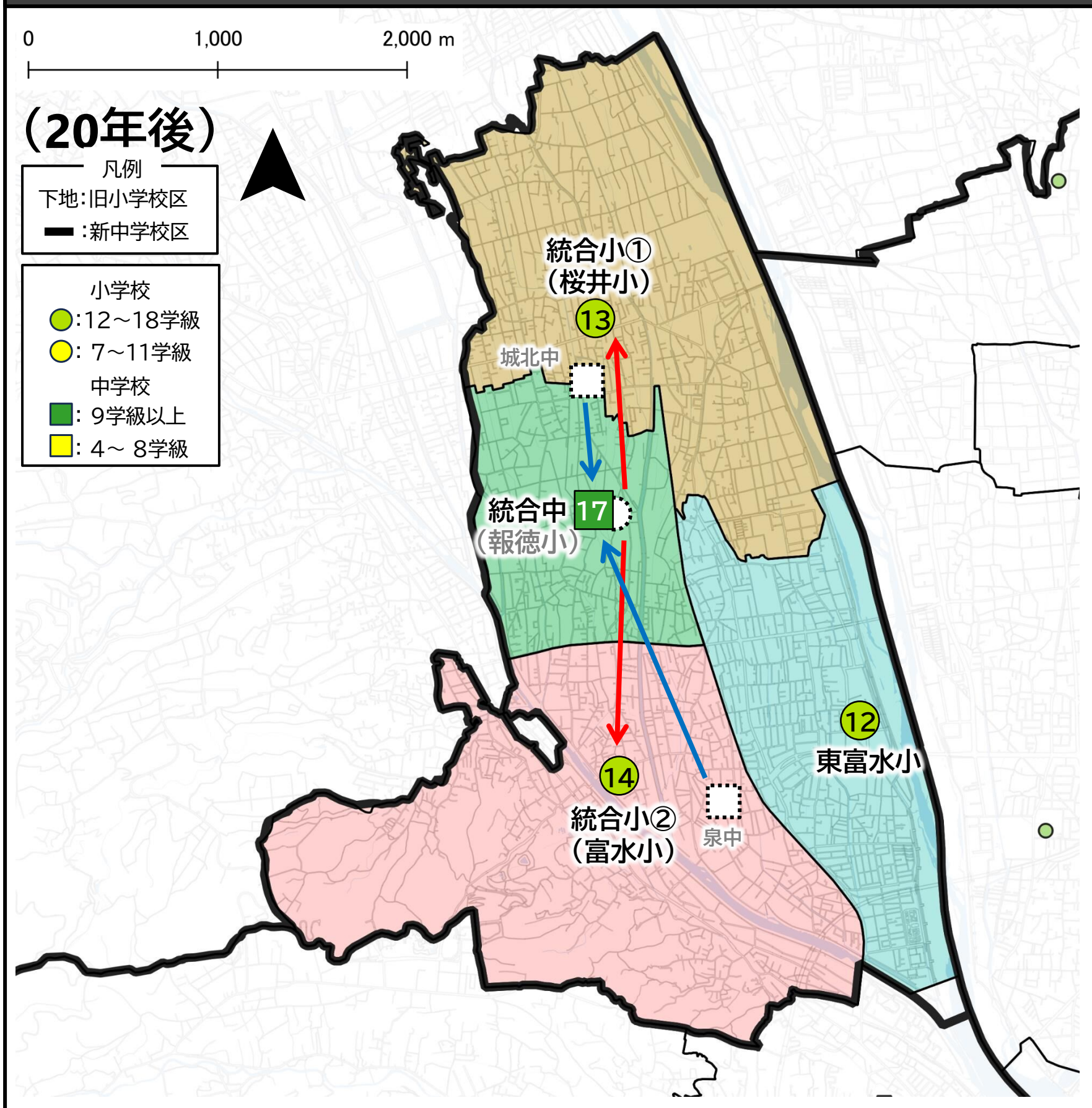
現状維持の場合(20年後)



自治会連合会と小学校区



ケース① 小学校:3校、中学校:1校



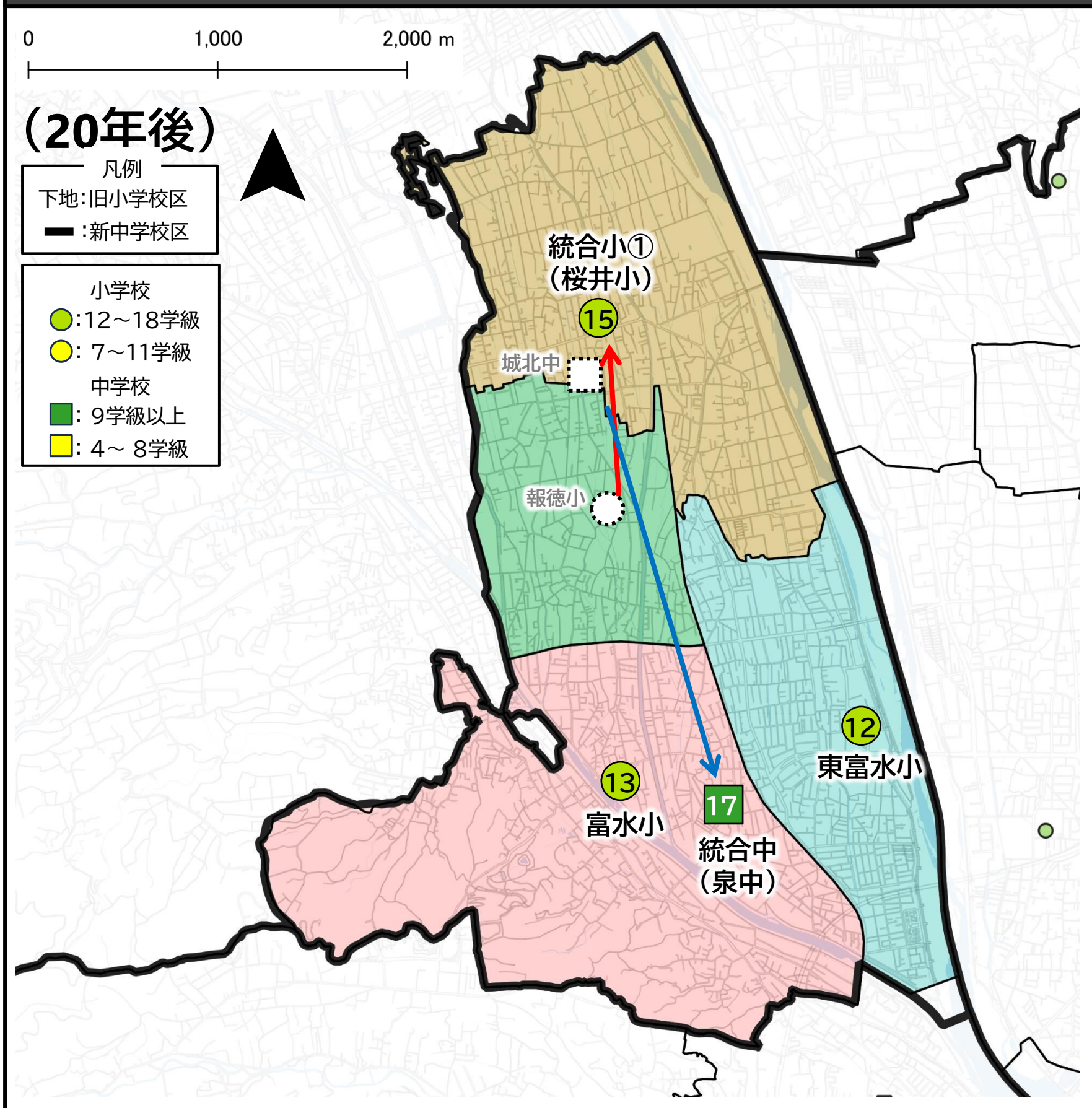
	再編校 (設置場所)	対象校
1	統合小①(桜井小)	<ul style="list-style-type: none"> 桜井小 報徳小
2	統合小②(富水小)	<ul style="list-style-type: none"> 富水小 報徳小
3	東富水小	
4	統合中(報徳小)	<ul style="list-style-type: none"> 泉中 城北中

与件	評価	備考
規模	○	
ハザード	—	
分散進学	—	
通学距離	○	中学校の通学距離の偏りは一定程度解消

学校のない自治会	なし
----------	----

※再編後の学級数は、統合した学校の児童生徒数に、小学校:1学級35人、中学校:1学級40人とし、切り上げて算出している

ケース② 小学校:3校、中学校:1校



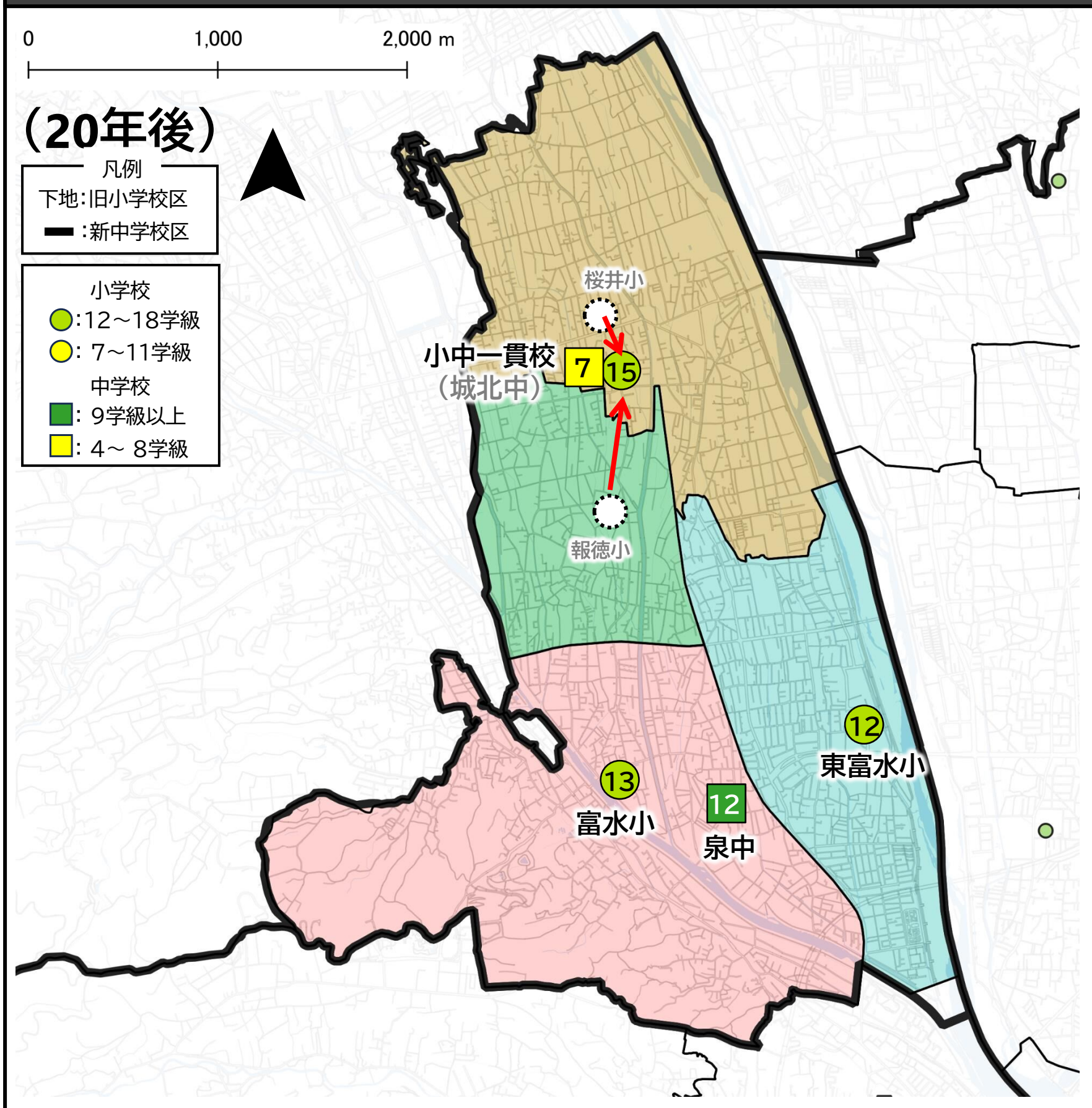
	再編校 (設置場所)	対象校
1	統合小①(桜井小)	<ul style="list-style-type: none"> 桜井小 報徳小
2	富水小	
3	東富水小	
4	統合中(泉中)	<ul style="list-style-type: none"> 泉中 城北中

与件	評価	備考
規模	○	
ハザード	—	
分散進学	—	
通学距離	△	中学校の通学距離に偏りが生じる

学校のない 自治会	なし
--------------	----

※再編後の学級数は、統合した学校の児童生徒数に、小学校:1学級35人、中学校:1学級40人とし、切り上げて算出している

ケース③ 小学校:2校、中学校:1校、小中一貫校:1校



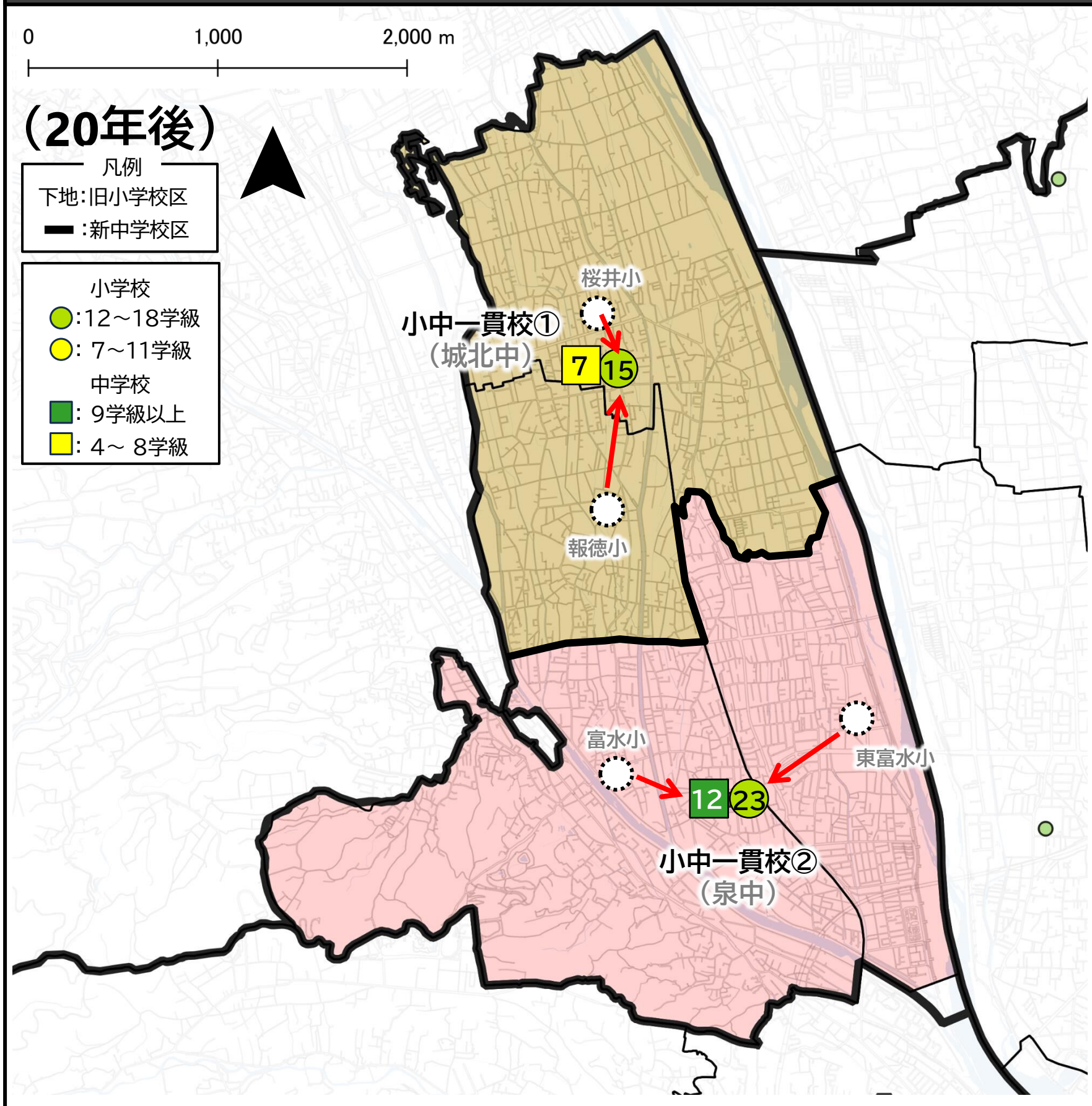
	再編校 (設置場所)	対象校
1	小中一貫校(城北中)	<ul style="list-style-type: none"> 桜井小 報徳小 城北中
2	富水小	
3	東富水小	
4	泉中	

与件	評価	備考
規模	△	
ハザード	—	
分散進学	—	
通学距離	○	

学校のない自治会	なし
----------	----

※再編後の学級数は、統合した学校の児童生徒数に、小学校:1学級35人、中学校:1学級40人とし、切り上げて算出している

ケース④ 小中一貫校:2校



	再編校 (設置場所)	対象校
1	小中一貫校(城北中)	<ul style="list-style-type: none"> 桜井小 報徳小 城北中
2	小中一貫校(泉中)	<ul style="list-style-type: none"> 富水小 東富水小 泉中

与件	評価	備考
規模	△	
ハザード	—	
分散進学	—	
通学距離	○	

学校のない自治会	なし
----------	----

※再編後の学級数は、統合した学校の児童生徒数に、小学校:1学級35人、中学校:1学級40人とし、切り上げて算出している

ワークショップ概要

第1回

「学校・地域の現状を共有しよう」

- ◆開催日時 令和6年9月2日(月)19:00～21:00
- ◆開催場所 小田原アリーナ 大会議室

第1回 ワークショップの流れ

内容	
開会	<ul style="list-style-type: none"> ● 主催者 & ファシリテーターあいさつ ● アイスブレイク
市からの説明	<p>【市からの説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新しい学校づくり推進事業について ● 本ワークショップの目的 ● 地域・学校の現状と課題 ● 地域の学校配置の将来像 <div style="text-align: right;"> <p>【説明資料(抜粋)】</p> </div>
グループワーク	<p>【学校配置の将来像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 3つのケースごとに、気になること、気づいたことを出し合う ● グループごとに案を整理 <div style="text-align: right;"> </div>
発表 意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ● グループごとに発表(1グループ5分以内) ● 質疑応答・意見交換 ● ファシリテーターからのコメント

東富水・富水・桜井地域の「新しい学校づくり」を考えるワークショップ

「学校・地域の現状を共有しよう」

第1回

日程：2024年9月4日
時間：19:00～21:00
場所：小田原アリーナ

● ワークショップの主旨

「新しい学校づくり推進基本計画」において、学校配置に係る地域との合意形成プロセスの手法等を提示するにあたり、より実効性の高いプロセスとするため、モデル地域を選定し、学校・地域関係者等による検討組織を設け、学校配置案等の検討(意見交換・ワークショップ)を行う。

● 第1回ワークショップ

ワークショップには、自治会代表、各学校長、PTA会長、公募市民等17名参加していただきました。第1回のグループワークは「学校・地域の現状を共有しよう」をテーマに、市からの説明を聞いた後、3つの再編ケースごとに、気になること、築いたことを話し合い、最後に発表を行いました。

プログラム	
1. 開会	・主催者 & ファシリテーターあいさつ ・アイスブレイク
2. 市からの説明	・新しい学校づくり推進事業について ・地域・学校の現状と課題 ・地域の学校配置の将来像
3. グループワーク	・3つのケースごとに、気になること、気づいたことを出し合う
4. 発表・意見交換	・グループごとに発表 ・ファシリテーターからのコメント

● グループごとの主な意見

- ・統合による通学距離が遠くなる点について、スクールバス等対応策が必要。
- ・想定は20年後で良いのか。長いスパンで見ると人口もさらに減るだろうし、先を見据えた検討が必要ではないか。
- ・学校は防災拠点としての役割にも期待されている。統廃合によって避難所がなくならないようにしてほしい。
- ・自治会と整合する必要があるのか、未来の子供たちの事を先に考えるべき。
- ・小中一貫校は、9学年の世代間交流ができて良いと思うが、人間関係が固定化することについて不安がある

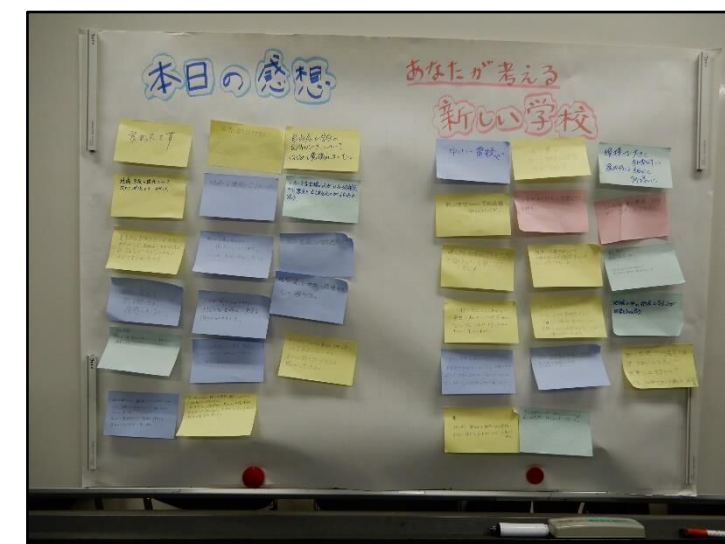


● ファシリテーターのまとめ

- ・前提条件になっている点をどのように共有し、議論するかという難しさがある。
- ・自治会と学校の関係について、各テーブルから意見が出ている。
- ・防災についても論点とし、検討が必要と感じる。
- ・人口増加や通学に関して都市計画等、土地利用を踏まえる必要がある。

● 今後の予定

- 【2回目】
 - 学校と地域との連携方策（地域開放、管理運営のあり方等）
- 【3回目】
 - 学区変更、通学距離・時間の変更への対応策（安全対策など）
- 【4回目】
 - 2・3回を踏まえ、学校配置の将来像や今後の検討の方向性等について整理、とりまとめ



第1回ワークショップの主な意見

Aグループ	Bグループ
<ul style="list-style-type: none">・ A班は、各案の内容というより、前提としての条件について意見を出し合った。・ 将来像については、<u>市の説明にカフェなどを併設するといった話があったが、外部とのつながりの危険性をどう考えるか。</u>・ 人口については、報徳地域は本当にこんなに減っていくのか。・ 距離については、<u>通学時間より実際に小学生が感じている距離はもっとあるのではないか。</u>その中で4km歩かせるのはどうなのか、といった意見があった。・ 教育については、地域行事は各校長の判断で対応しているが、教育委員会として統一すべきではないか。また、1学年3クラスが本当によいのか、クラスの前提に対する意見として、校長や教頭など先生の数に平等にする考えもあるのではないか。・ 今あるものでどうしていくか、考えるべきではないかという意見があった。	<ul style="list-style-type: none">・ 話し合うにあたって問題が多すぎる、というのが議論になった。<u>老朽化/少子化/教育内容に分けて話し合いたい</u>という意見があった。・ 報徳小がいまある辺りは、家が増えているが、ケース2・3は報徳小辺りが学校がなくなるので、大勢の子供達が遠くまで通うのはどうなのか、という話があった。・ 先生の見解として、今は学級数を議論の題材にしているが、これは世代間交流があまりない前提での考え。今後、教育のあり方が変わっていったら、学級数がそこまで重要でなくなる可能性もなきにしもあらず。・ <u>学校のつくりについて、フリースペース、ユニバーサルデザインを進めるべき</u>という意見だった。

第1回ワークショップの主な意見

Cグループ

- ・ ケース1・2・3を全体的に見たときに、「通学距離が遠い」という問題と「小中一貫教育」という教育の仕組みについての不安が出た。
- ・ 長い距離の通学に対して、途中で休憩所を設けられないか。制服を着たまま、荷物をもったまま休むことができたり、水を飲むことができたりすることで、長い距離に対応できないか、という意見が出た。
- ・ 防災拠点としての学校の役割と、教育施設としての学校の役割をそもそも切り離せるのか、という話をした。切り離せないのなら、それを前提に話をしないといけないし、公民館などを防災拠点とできるなら、また別の考えもできるのではないか、という話が出た。

Dグループ





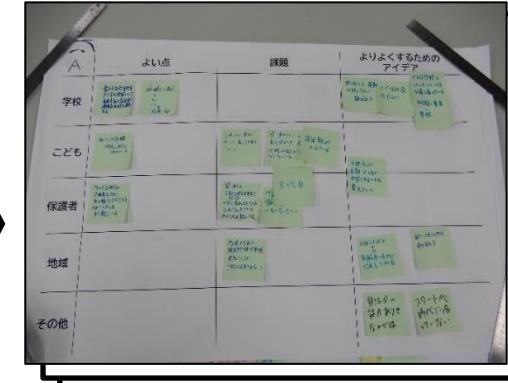
- ・ 一番の難点は、自治会と学校の間をどうするか。これを考えないといけない。では、自治会を新たに編成しよう、という話も出た。ただ現実問題としてできるのか、という話もあった。統廃合をきっかけに地域を考えてはどうかという話があった。
- ・ ケース2は、1つの案だからいいが、昔に戻すのはどうなのか。もっと新しいものを考えたほうがいいのか。ということで、ケース3として、小中一貫はナイスなアイデア。
- ・ ケース4として、ケース3の発展形として、南側にも小中一貫校をつくって、魅力ある学校を作って競い合っていけばおもしろい発展的な学校ができるのではないか。
- ・ 小田急に新しい駅でも作ってもらって交通面をカバーするなどの案も出た。
- ・ 小中一貫校をまん中に1つ、それはいつになるかわからないけれど、もっと長いスパンで見ると人口も減っていくので、先を見据えた形で小中一貫校を2つの案は良いというのが意見が出た。

第2回

「学校と地域の関係を考えよう」

- ◆開催日時 令和6年10月4日(金)19:00～21:00
- ◆開催場所 小田原アリーナ 研修室

第2回 ワークショップの流れ

内容																									
開会	<ul style="list-style-type: none"> ● 主催者 & ファシリテーターあいさつ ● 市からの説明 																								
現状の説明	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災/防犯に関して、現状、自治会が担っている役割 ● 防災/防犯に関して、全市的な決まり・ルール・仕組み ● 地域内の公共施設 <p style="text-align: right;">資料をもとに、対談形式で防犯/防災だけでなく地域で子供たちと連携した取組等を紹介</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>●富水地区区民球技大会</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年6月2日、富水小体育館で、富水地区区民球技大会が開催され、ポッチャとスポーツ吹矢の2種目の競技が行われました。 ポッチャには6チーム18名、スポーツ吹矢には4チーム18名が参加し、子供から高齢者まで楽しめたスポーツ大会となりました。  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>●富水地区レクリエーション大会</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年10月1日、これまでの健民祭に代わる行事として、レクリエーション大会が泉中学校で行われました。 地域の大人や子供約130名が訪れ、楽しそうに体を動かしていました。  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>																								
グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校と地域(自治会)のつながりについて検討 ● ケース①～④に対し「地域とのつながり」という視点で意見交換 <p style="text-align: right;">各ケースの「よい点、課題、よりよくするためのアイデア」を検討</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>グループワーク「学校と地域のつながりについて」の作業イメージ</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>よい点</th> <th>課題</th> <th>よりよくするためのアイデア</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校</td> <td></td> <td></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●グループワーク①・種/種に種・項目を書き込んだ模造紙を用意 ●学校と地域のつながりについて、あてはまる欄に付箋を貼付け </td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>地域の中に遊び場が使える</td> <td>学校と地域のつながりがない</td> <td></td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>地域の行事に参加できる</td> <td>学校の行事に参加できない</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●グループワーク②・4つの配置イメージを見ながら、①で出した意見に該当するケース番号を書き込み </td> </tr> <tr> <td>地域</td> <td>地域の行事に参加できる</td> <td>学校の行事に参加できない</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●ケースの色は 学校区:青 自治会:赤 と分けて書き込む </td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;"> <p>➡</p>  <p>A～Fグループ</p> </div> </div>		よい点	課題	よりよくするためのアイデア	学校			<ul style="list-style-type: none"> ●グループワーク①・種/種に種・項目を書き込んだ模造紙を用意 ●学校と地域のつながりについて、あてはまる欄に付箋を貼付け 	子ども	地域の中に遊び場が使える	学校と地域のつながりがない		保護者	地域の行事に参加できる	学校の行事に参加できない	<ul style="list-style-type: none"> ●グループワーク②・4つの配置イメージを見ながら、①で出した意見に該当するケース番号を書き込み 	地域	地域の行事に参加できる	学校の行事に参加できない	<ul style="list-style-type: none"> ●ケースの色は 学校区:青 自治会:赤 と分けて書き込む 	その他			
	よい点	課題	よりよくするためのアイデア																						
学校			<ul style="list-style-type: none"> ●グループワーク①・種/種に種・項目を書き込んだ模造紙を用意 ●学校と地域のつながりについて、あてはまる欄に付箋を貼付け 																						
子ども	地域の中に遊び場が使える	学校と地域のつながりがない																							
保護者	地域の行事に参加できる	学校の行事に参加できない	<ul style="list-style-type: none"> ●グループワーク②・4つの配置イメージを見ながら、①で出した意見に該当するケース番号を書き込み 																						
地域	地域の行事に参加できる	学校の行事に参加できない	<ul style="list-style-type: none"> ●ケースの色は 学校区:青 自治会:赤 と分けて書き込む 																						
その他																									
発表 意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ● グループごとに発表(1グループ4分以内) ● 質疑応答・意見交換 ● ファシリテーターからのコメント 																								

東富水・富水・桜井地域の「新しい学校づくり」を考えるワークショップ

「学校と地域の関係を考えよう」

第2回

日程：2024年10月4日
時間：19:00～21:00
場所：小田原アリーナ

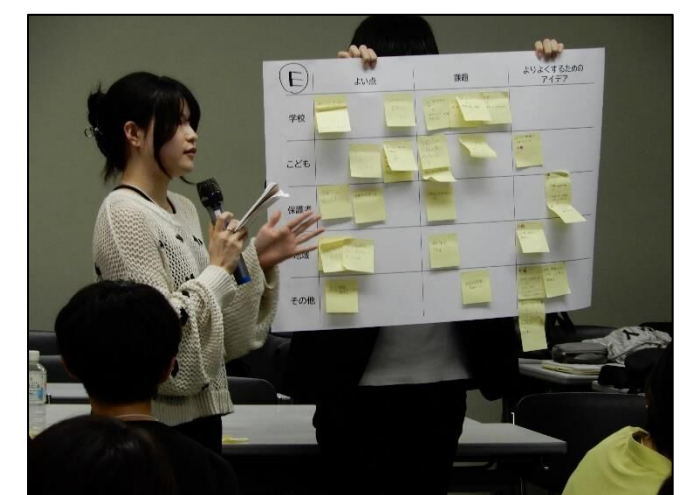
● 第2回ワークショップ

第2回のグループワークは「学校と地域の関係を考えよう」をテーマに行いました。まず、地域で活躍されている自治会代表と対談形式で、自治会が取り組まれていることなどを教えていただき、その後は、6つのグループに分かれたグループワークで、“学校” “子ども” “保護者” など、さまざまな立場から、学校と地域が関わることのよい点や課題、今後に向けたアイデアなどを意見交換しました。

プログラム	
1. 開会	<ul style="list-style-type: none"> 主催者 & ファシリテーターあいさつ 今後のワークショップの進め方について
2. 現状の説明	<ul style="list-style-type: none"> 防災・防犯に関して自治会が担っている役割(自治会代表と対談方式) 防災・防犯に関して全市的な決まり、ルール・仕組
3. グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> 学校と地域(自治会)のつながりについて、良い点、課題、より良くするためのアイデアを出し合う 前回の配置案を見ながら「地域とのつながり」という視点で意見交換
4. 発表・意見交換	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに発表 ファシリテーターからのコメント

● グループごとの主な意見

- 子供は、学校のカリキュラムにない部分を地域から学ぶことができる。
- 学校を使って地域のイベントを開いており、地域と学校との関わりができています。お互いに顔を知ることによって、防犯や防災につながる効果が出ている。
- 自治会の役員が減っているために負担が大きくなっている。
- 学区と自治会区域のずれがあるため、連携が難しい部分がある。
- 保護者は、地域の方から子育てを応援してもらえる。
- 習い事など放課後の過ごし方の選択肢が増えているなかで、PTAに求められていることや自治会に求められていることが変わってきているのではないかと。



● ファシリテーターのまとめ

- 子供たちも地域社会も、昔と比べて変わってきている。今ある課題をダイナミックに改善できるやり方を考えていくのは、今後の知恵の出しようと感じた。
- 地域社会が子供たちにとってよりよい場所として感じられることが大切だと感じた。それを踏まえて、新しい学校がどうあるべきかを考えていくべきだろうと思う。

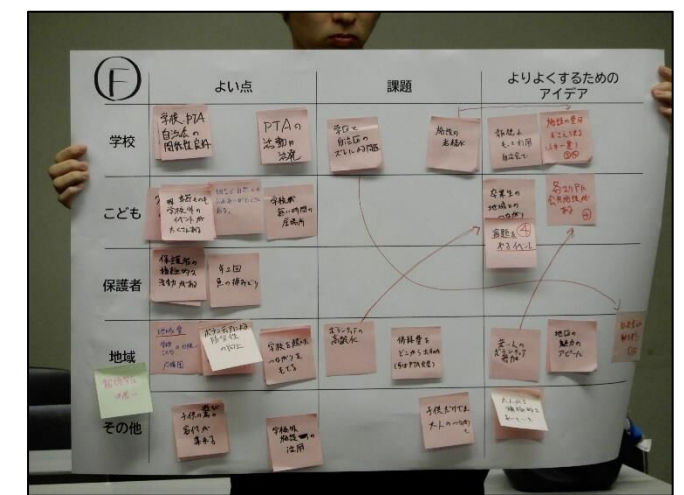
● 今後の予定

【3回目】

- 通学環境について

【4回目】

- 1～3回を踏まえ、学校配置の将来像や今後の検討の方向性等について整理、とりまとめ



第2回ワークショップの主な意見

Aグループ	Bグループ
<ul style="list-style-type: none">・ 現役世代は平日仕事をしているので、PTAや地域の活動に参加しづらいという課題もあがった。・ よりよくするためのアイデアとしては、自治会もPTAも、子供たちの遊びが多様化していることを把握したり、子育ての仕方も変わっているために求められていることも変わっていることを共通認識として持つことが大切。・ <u>学校運営は自治会の協力ありきになっているところが大きい</u>。どのようにすれば、これからの時代にあわせたPTAや自治会の役割が果たせるか、考えていかなければいけないと感じた。	<ul style="list-style-type: none">・ よい点としては、<u>自治会の方が防犯パトロールや学校を使って地域のイベントを開いており、地域と学校との関わりができています</u>。それによって、地域の方は、子供の顔を知ることができ、顔見知りになることで防犯や防災につながるという意見があった。・ ケース4の小中一貫校2つの案では、交通手段が徒歩から変化することがあるのではないかという意見があり、スクールバスやライドシェアとして誰かが子供たちをまとめて乗せていく方法があるという意見が出た。ただし、スクールバスの場合は、遅延や拠点まで歩く必要があるため、安全面などで課題があるのではないかという意見が出た。・ 保護者からは、<u>通学方法が一つになるのは課題になるので、いくつか通学方法を選択できるように用意しておく必要がある</u>という意見があった。

第2回ワークショップの主な意見

Cグループ	Dグループ
<ul style="list-style-type: none">・ 災害について、<u>地域と連携することで非常時の活動がしやすかったり、連絡網が活用できるという点があげられた。</u>・ 学校とつながっていない不登校などの子供に関しては、災害時に問題が生じてしまうことが考えられるため、<u>学校以外のつながりをつくることで、学校以外のコミュニティで災害時のつながりになる。</u>・ 地域と学校の関わりについては、<u>地域での子供の活躍の場が設けられていることがあげられた。</u>具体的には、レクリエーションのイベントやあいさつ運動が行われており、<u>学校の施設を地域が使うなどして地域との関わりが出ることで子供の成長につながる。</u>	<ul style="list-style-type: none">・ 学校に関するよい点としては、校舎が広い。稲刈りなど地域のサポートがなくてもできる環境にある。課題としては、コロナをきっかけにさまざまなイベントがなくなってしまう、子供の交流や大人の交流の機会が減ってしまった。・ 保護者については、PTAの役員の提案が実現できることが良い点としてあげられた。課題としては、PTAに入っていないと行事に参加できないということ。また、PTAは任意なので入らない家庭もある。PTAは継続して参加することで、いろいろな意見やアイデアを出して、子供の想いを実現できることもあるので、活動に参加してくれる人が増えると良いという意見が出た。・ 学校を超えた交流についても、<u>地域の特性をいかした活動を行ったりさまざまな交流を行うことで子供たちの交流が増えていくのではないかというアイデアがでた。</u>

第2回ワークショップの主な意見


Eグループ	Fグループ
<ul style="list-style-type: none">・地域の防犯について、「相互に見守りができる」という点について話を進めた。課題として、人口密度が減っているため、<u>学校区が広くなったときに、見守りがしきれなくなるのでは、</u>といった意見が出た。・解決策として、日常的に見守りをする事でカバーできるというアイデアが出た。例えば通学時間に、家の前に高齢者などが出て、あいさつなどの声掛けをすることで、お互いの見守りにつながるのではないかという案が出た。・そのためには相互理解が必要になる。あいさつをするから良いと思う人もいれば、怖いと感じる人もいるため、相互理解が必要だと思う。・<u>小中一貫にすることで、9年間で関わりが増え、顔見知りが増えるので、お互いの信頼につながると思う。</u>・広く浅く関わることで、義務感ではなく、自然にできる取組が必要ではないか、という話が出た。	<ul style="list-style-type: none">・学校とPTAと自治会の関係が非常に良好でいろいろな活動ができている。・プールの老朽化で学校プールが使えず、地域のスイミングスクールを使用したけど、施設の老朽化は市全体の課題だと思う。・子供に関しては、<u>学校・地域・PTAの協力でいろいろなイベントに参加できることが子供の成長に有効。</u>・良くするためのアイデアとして、施設の費用をおさえるため手法として、ケース3・4で<u>小中一貫校として施設面のコストを抑える案</u>が出た。・地域と子供たちの関わりを活発にするために、夏休みなどの長期休暇の宿題を、地域の方が主催して公民館などに持ち寄って、そこで地域の人や地域に住む高校生が教えてあげることによって、地域の縦のつながり、横のつながりが生まれることになるのではないかと。

第3回

「新しい学校の通学環境について考えよう！」

- ◆開催日時 令和6年10月29日(火)19:00～21:00
- ◆開催場所 城北タウンセンター いずみホール

第3回 ワークショップの流れ

内容																																																							
開会	<ul style="list-style-type: none"> ● ファシリテーターあいさつ ● 第1回・第2回のワークショップで挙げた意見をおさらい 																																																						
交通手段について	<ul style="list-style-type: none"> ● 通学手段等に関する基準、市の補助制度や他都市の事例紹介 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>●通学距離と遠距離通学補助金について</p> <p>文部科学省が定める小学校及び中学校に係る学校設置の一般的基準と補助基準等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>一般基準</th> <th>補助基準等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>児童が徒歩で通学可能な範囲に定める。</td> <td>通学距離がおおむね4.5km以内</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>児童が徒歩で通学可能な範囲に定める。</td> <td>通学距離がおおむね6.5km以内</td> </tr> </tbody> </table> <p>出典：文部科学省</p> <p>小田原市の通学などに関する補助制度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>補助金の目的</th> <th>小田原市立小中学校児童生徒遠距離通学補助金</th> <th>小田原市特別支援学校児童生徒遠距離通学補助金</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>補助対象者</td> <td>小田原市立小中学校に在籍し、自宅から小学校までの通学距離が片道4.5キロメートル、中学校までの通学距離が片道6.5キロメートルを超えて、公共交通機関を利用して通学する児童生徒の親権者又は保護人その他の者であつて、かつ、他の市区により通学補助金を受けていない者</td> <td>小田原市立特別支援学校に在籍する児童生徒の親権者等の者であつて、かつ、他の市区により通学補助金を受けていない者</td> </tr> <tr> <td>補助金額</td> <td>1 公共交通機関利用の場合 通学児童1人につき、通学に利用するために購入した公共交通機関の乗車券の総額の2分の1に相当する額。ただし、複数の公共交通機関を利用する場合には、それぞれの乗車券が最も高い額を乗車券の2分の1に相当する額とする。 2 自転車利用の場合 通学児童1人につき、世界1世帯につき、知事の通学距離の区分に応じて当該区分に定める額 (1) 6キロメートル未満 月額7,700円 (2) 6キロメートル以上 月額6,590円</td> <td>1 交通機関利用の場合 乗車券の総額に相当する額 2 自転車利用の場合 知事の通学距離が1キロメートル以上の者に対し、知事の通学距離の区分に応じて当該区分に定める額 (1) 5キロメートル未満 月額7,700円 (2) 5キロメートル以上 月額6,590円</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="width: 48%;"> <p>●スクールバス導入事例</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自治体</th> <th>経緯(概要)</th> <th>小田原市(事例)</th> <th>国(事例)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自治体</td> <td>自治体所有のバスと民間委託の混合型</td> <td>スクールバスからコミュニティバスへ転換 拡大 バスは自治体が入入</td> <td>初めから民間委託 バスも民間事業者が所有・運営</td> </tr> <tr> <td>人口</td> <td>約10万人(平成25年12月1日現在)</td> <td>2,858人(平成25年12月1日現在)</td> <td>41,624人(平成25年12月現在)</td> </tr> <tr> <td>学級数</td> <td>小学校29校 中学校1校</td> <td>小学校1校 中学校1校</td> <td>小学校3校 中学校3校</td> </tr> <tr> <td>運営形態</td> <td>自治体所有のバスと民間委託の混合型</td> <td>民間委託のバスと民間委託のバスとの混合型</td> <td>民間委託のバスと民間委託のバスとの混合型</td> </tr> <tr> <td>経緯</td> <td>高齢化率の上昇、通学距離の増加、通学手段の多様化、通学手段の多様化、通学手段の多様化</td> <td>高齢化率の上昇、通学距離の増加、通学手段の多様化、通学手段の多様化、通学手段の多様化</td> <td>高齢化率の上昇、通学距離の増加、通学手段の多様化、通学手段の多様化、通学手段の多様化</td> </tr> <tr> <td>経緯</td> <td>高齢化率の上昇、通学距離の増加、通学手段の多様化、通学手段の多様化、通学手段の多様化</td> <td>高齢化率の上昇、通学距離の増加、通学手段の多様化、通学手段の多様化、通学手段の多様化</td> <td>高齢化率の上昇、通学距離の増加、通学手段の多様化、通学手段の多様化、通学手段の多様化</td> </tr> <tr> <td>コスト</td> <td>スクールバス導入費用、バス運行費用、バス運行費用</td> <td>スクールバス導入費用、バス運行費用、バス運行費用</td> <td>スクールバス導入費用、バス運行費用、バス運行費用</td> </tr> <tr> <td>評価</td> <td>高齢化率の上昇、通学距離の増加、通学手段の多様化、通学手段の多様化、通学手段の多様化</td> <td>高齢化率の上昇、通学距離の増加、通学手段の多様化、通学手段の多様化、通学手段の多様化</td> <td>高齢化率の上昇、通学距離の増加、通学手段の多様化、通学手段の多様化、通学手段の多様化</td> </tr> </tbody> </table> </div> </div> <p>● 文部科学省が定める通学距離の基準やと小田原市の遠距離通学に関する補助金制度を紹介。また、他市のスクールバスの導入事例を経緯と合わせて紹介</p>	区分	一般基準	補助基準等	小学校	児童が徒歩で通学可能な範囲に定める。	通学距離がおおむね4.5km以内	中学校	児童が徒歩で通学可能な範囲に定める。	通学距離がおおむね6.5km以内	補助金の目的	小田原市立小中学校児童生徒遠距離通学補助金	小田原市特別支援学校児童生徒遠距離通学補助金	補助対象者	小田原市立小中学校に在籍し、自宅から小学校までの通学距離が片道4.5キロメートル、中学校までの通学距離が片道6.5キロメートルを超えて、公共交通機関を利用して通学する児童生徒の親権者又は保護人その他の者であつて、かつ、他の市区により通学補助金を受けていない者	小田原市立特別支援学校に在籍する児童生徒の親権者等の者であつて、かつ、他の市区により通学補助金を受けていない者	補助金額	1 公共交通機関利用の場合 通学児童1人につき、通学に利用するために購入した公共交通機関の乗車券の総額の2分の1に相当する額。ただし、複数の公共交通機関を利用する場合には、それぞれの乗車券が最も高い額を乗車券の2分の1に相当する額とする。 2 自転車利用の場合 通学児童1人につき、世界1世帯につき、知事の通学距離の区分に応じて当該区分に定める額 (1) 6キロメートル未満 月額7,700円 (2) 6キロメートル以上 月額6,590円	1 交通機関利用の場合 乗車券の総額に相当する額 2 自転車利用の場合 知事の通学距離が1キロメートル以上の者に対し、知事の通学距離の区分に応じて当該区分に定める額 (1) 5キロメートル未満 月額7,700円 (2) 5キロメートル以上 月額6,590円	自治体	経緯(概要)	小田原市(事例)	国(事例)	自治体	自治体所有のバスと民間委託の混合型	スクールバスからコミュニティバスへ転換 拡大 バスは自治体が入入	初めから民間委託 バスも民間事業者が所有・運営	人口	約10万人(平成25年12月1日現在)	2,858人(平成25年12月1日現在)	41,624人(平成25年12月現在)	学級数	小学校29校 中学校1校	小学校1校 中学校1校	小学校3校 中学校3校	運営形態	自治体所有のバスと民間委託の混合型	民間委託のバスと民間委託のバスとの混合型	民間委託のバスと民間委託のバスとの混合型	経緯	高齢化率の上昇、通学距離の増加、通学手段の多様化、通学手段の多様化、通学手段の多様化	高齢化率の上昇、通学距離の増加、通学手段の多様化、通学手段の多様化、通学手段の多様化	高齢化率の上昇、通学距離の増加、通学手段の多様化、通学手段の多様化、通学手段の多様化	経緯	高齢化率の上昇、通学距離の増加、通学手段の多様化、通学手段の多様化、通学手段の多様化	高齢化率の上昇、通学距離の増加、通学手段の多様化、通学手段の多様化、通学手段の多様化	高齢化率の上昇、通学距離の増加、通学手段の多様化、通学手段の多様化、通学手段の多様化	コスト	スクールバス導入費用、バス運行費用、バス運行費用	スクールバス導入費用、バス運行費用、バス運行費用	スクールバス導入費用、バス運行費用、バス運行費用	評価	高齢化率の上昇、通学距離の増加、通学手段の多様化、通学手段の多様化、通学手段の多様化	高齢化率の上昇、通学距離の増加、通学手段の多様化、通学手段の多様化、通学手段の多様化	高齢化率の上昇、通学距離の増加、通学手段の多様化、通学手段の多様化、通学手段の多様化
区分	一般基準	補助基準等																																																					
小学校	児童が徒歩で通学可能な範囲に定める。	通学距離がおおむね4.5km以内																																																					
中学校	児童が徒歩で通学可能な範囲に定める。	通学距離がおおむね6.5km以内																																																					
補助金の目的	小田原市立小中学校児童生徒遠距離通学補助金	小田原市特別支援学校児童生徒遠距離通学補助金																																																					
補助対象者	小田原市立小中学校に在籍し、自宅から小学校までの通学距離が片道4.5キロメートル、中学校までの通学距離が片道6.5キロメートルを超えて、公共交通機関を利用して通学する児童生徒の親権者又は保護人その他の者であつて、かつ、他の市区により通学補助金を受けていない者	小田原市立特別支援学校に在籍する児童生徒の親権者等の者であつて、かつ、他の市区により通学補助金を受けていない者																																																					
補助金額	1 公共交通機関利用の場合 通学児童1人につき、通学に利用するために購入した公共交通機関の乗車券の総額の2分の1に相当する額。ただし、複数の公共交通機関を利用する場合には、それぞれの乗車券が最も高い額を乗車券の2分の1に相当する額とする。 2 自転車利用の場合 通学児童1人につき、世界1世帯につき、知事の通学距離の区分に応じて当該区分に定める額 (1) 6キロメートル未満 月額7,700円 (2) 6キロメートル以上 月額6,590円	1 交通機関利用の場合 乗車券の総額に相当する額 2 自転車利用の場合 知事の通学距離が1キロメートル以上の者に対し、知事の通学距離の区分に応じて当該区分に定める額 (1) 5キロメートル未満 月額7,700円 (2) 5キロメートル以上 月額6,590円																																																					
自治体	経緯(概要)	小田原市(事例)	国(事例)																																																				
自治体	自治体所有のバスと民間委託の混合型	スクールバスからコミュニティバスへ転換 拡大 バスは自治体が入入	初めから民間委託 バスも民間事業者が所有・運営																																																				
人口	約10万人(平成25年12月1日現在)	2,858人(平成25年12月1日現在)	41,624人(平成25年12月現在)																																																				
学級数	小学校29校 中学校1校	小学校1校 中学校1校	小学校3校 中学校3校																																																				
運営形態	自治体所有のバスと民間委託の混合型	民間委託のバスと民間委託のバスとの混合型	民間委託のバスと民間委託のバスとの混合型																																																				
経緯	高齢化率の上昇、通学距離の増加、通学手段の多様化、通学手段の多様化、通学手段の多様化	高齢化率の上昇、通学距離の増加、通学手段の多様化、通学手段の多様化、通学手段の多様化	高齢化率の上昇、通学距離の増加、通学手段の多様化、通学手段の多様化、通学手段の多様化																																																				
経緯	高齢化率の上昇、通学距離の増加、通学手段の多様化、通学手段の多様化、通学手段の多様化	高齢化率の上昇、通学距離の増加、通学手段の多様化、通学手段の多様化、通学手段の多様化	高齢化率の上昇、通学距離の増加、通学手段の多様化、通学手段の多様化、通学手段の多様化																																																				
コスト	スクールバス導入費用、バス運行費用、バス運行費用	スクールバス導入費用、バス運行費用、バス運行費用	スクールバス導入費用、バス運行費用、バス運行費用																																																				
評価	高齢化率の上昇、通学距離の増加、通学手段の多様化、通学手段の多様化、通学手段の多様化	高齢化率の上昇、通学距離の増加、通学手段の多様化、通学手段の多様化、通学手段の多様化	高齢化率の上昇、通学距離の増加、通学手段の多様化、通学手段の多様化、通学手段の多様化																																																				
グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> ● ケース①～④ごとに、「通学距離/通学手段/通学路/その他」の観点で気になることなどについて話し合う <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>グループワーク「各ケースの通学環境について」の作業イメージ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>グループ</th> <th>再編ケース①</th> <th>再編ケース②</th> <th>再編ケース③</th> <th>再編ケース④</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通学距離</td> <td>自宅から学校までの距離が長い場合、通学手段の検討が必要</td> <td>自宅から学校までの距離が長い場合、通学手段の検討が必要</td> <td>自宅から学校までの距離が長い場合、通学手段の検討が必要</td> <td>自宅から学校までの距離が長い場合、通学手段の検討が必要</td> </tr> <tr> <td>通学手段</td> <td>スクールバス、自転車、徒歩</td> <td>スクールバス、自転車、徒歩</td> <td>スクールバス、自転車、徒歩</td> <td>スクールバス、自転車、徒歩</td> </tr> <tr> <td>通学路</td> <td>通学路の安全性、通学路の整備</td> <td>通学路の安全性、通学路の整備</td> <td>通学路の安全性、通学路の整備</td> <td>通学路の安全性、通学路の整備</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>通学環境の改善、通学環境の改善</td> <td>通学環境の改善、通学環境の改善</td> <td>通学環境の改善、通学環境の改善</td> <td>通学環境の改善、通学環境の改善</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="width: 45%;"> <p>A～Dグループ</p>  </div> </div>	グループ	再編ケース①	再編ケース②	再編ケース③	再編ケース④	通学距離	自宅から学校までの距離が長い場合、通学手段の検討が必要	自宅から学校までの距離が長い場合、通学手段の検討が必要	自宅から学校までの距離が長い場合、通学手段の検討が必要	自宅から学校までの距離が長い場合、通学手段の検討が必要	通学手段	スクールバス、自転車、徒歩	スクールバス、自転車、徒歩	スクールバス、自転車、徒歩	スクールバス、自転車、徒歩	通学路	通学路の安全性、通学路の整備	通学路の安全性、通学路の整備	通学路の安全性、通学路の整備	通学路の安全性、通学路の整備	その他	通学環境の改善、通学環境の改善	通学環境の改善、通学環境の改善	通学環境の改善、通学環境の改善	通学環境の改善、通学環境の改善																													
グループ	再編ケース①	再編ケース②	再編ケース③	再編ケース④																																																			
通学距離	自宅から学校までの距離が長い場合、通学手段の検討が必要	自宅から学校までの距離が長い場合、通学手段の検討が必要	自宅から学校までの距離が長い場合、通学手段の検討が必要	自宅から学校までの距離が長い場合、通学手段の検討が必要																																																			
通学手段	スクールバス、自転車、徒歩	スクールバス、自転車、徒歩	スクールバス、自転車、徒歩	スクールバス、自転車、徒歩																																																			
通学路	通学路の安全性、通学路の整備	通学路の安全性、通学路の整備	通学路の安全性、通学路の整備	通学路の安全性、通学路の整備																																																			
その他	通学環境の改善、通学環境の改善	通学環境の改善、通学環境の改善	通学環境の改善、通学環境の改善	通学環境の改善、通学環境の改善																																																			
発表意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ● グループごとに発表(1グループ4分以内) ● 質疑応答・意見交換 ● ファシリテーターからのコメント 																																																						



東富水・富水・桜井地域の「新しい学校づくり」を考えるワークショップ

「新しい学校の通学環境について考えよう！」

第3回

日程：2024年10月29日
時間：19：00～21：00
場所：城北タウンセンターいずみ

● 第3回ワークショップ

第3回のグループワークは「新しい学校の通学環境について考えよう！」をテーマに行いました。

まず、事務局より通学に関する市の補助制度の概要や他市のスクールバス導入例等の紹介があったあと、グループごとに、それぞれのケースに対して、通学距離や通学手段などの問題点や解決策などの意見を出し合いました。ケースごとに異なる点や共通する問題などを参加者で共有しました。

プログラム	
1. 開会	<ul style="list-style-type: none"> 主催者 & ファシリテーターあいさつ 前回までの振り返り
2. 交通手段について	<ul style="list-style-type: none"> 通学手段等に関する基準、市の補助制度や他都市の事例紹介
3. グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> 学校配置のケースごとに、「通学距離/通学手段/通学路/その他」の観点で、気になることなどについて話し合い、書き込む
4. 発表・意見交換	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに発表 ファシリテーターからのコメント

● グループごとの主な意見

- 中学校は1校になる場合、自転車通学を可能とすれば距離の問題はカバーできるのではないかと。
- スクールバスの場合、小中一貫校だと、バスを共有できるのでより良い。また、時間外はバスを地域の高齢者などが使えるものになるとよい。
- 多様性社会の観点から、自転車やバスなどの通学手段は個々に希望をきいてほしい。
- 全体的に交通量が多い場所があったり、仙了川沿いに歩道がないところがあるため、歩道整備が必要ではないかと。
- 小学校通学距離が遠くなるケースは、今の小学校の位置に低学年の分校を作ってはどうか。
- 報徳小の位置は、地域の中心の位置にあるので、避難所や不登校の子供が通うところなど、学校の機能を少し残した施設として残すとよい。



● ファシリテーターのまとめ

- 歩いて通える範囲はどれくらいかによってスクールバスを導入するかどうかが変わってくる。通学手段をどう取り込んでいくか、ケースバイケースではあるが論点になりそうである。
- それぞれの場所で配置案を決めていく際には、「道が狭い」「歩道がない」といったハード面の解決も重要な作業になると感じた。

● 今後の予定

【4回目】

- 1～3回を踏まえ、学校配置の将来像や今後の検討の方向性等について整理、とりまとめ

【報告会】

- 1～4回でまとめた意見を富水・桜井地域の人たちに報告する



第3回ワークショップの主な意見

Aグループ	Bグループ
<ul style="list-style-type: none">・小中一貫校をつくるケース③・④は、通学面については、もともと徒歩メインだったのが、特にケース④だと6校が2校に減るので徒歩メインは難しくなるため、バスや電車を使うことになると思う。その場合、時間が決まってくるので、授業時間などのカリキュラムの調整などが必要。また電車等の時間まで学校で遊ばせるなど、待ち時間の工夫も必要になる。・教育的な観点から、小中一貫だと、6～15歳までの子供が一斉に通うということは教育制度の大幅な変更になるので、ケース③の小中一貫校と小中両方がある状態で、学区に関わらず、子供や保護者がどちらに通うか選択できる制度を設けることが、改善策として挙げられた。	<ul style="list-style-type: none">・通学距離については、ケース②のように片側に中学校が偏ると、遠くなる生徒が出てくる。・通学路については、<u>全体的に交通量が多い場所があったり、仙了川沿いに歩道がないところがある</u>ため、歩道整備が必要ではないかという話があった。・小中一貫校のメリットが挙げられた。小中一貫校は生徒数を保ちつつ、将来の維持管理費などコストがあまりかからない、という意見が出た。小中一貫校の交通以外の問題としては、小学生と中学生で一緒になって不安があるのではないかという話も出たが、世代を超えた交流で、どちらにとっても成長の機会にもなるので、ケース③・④がいいのでは、という話になった。・ケース③と④どちらがいいかという話になったときに、ケース④だと2つの小中一貫校が一気にできることになるが、段階的に考えて、まずは1か所で小中一貫校を実践して、将来的に展開して2つにしていくのが最適なのではないか、という話になった。

第3回ワークショップの主な意見

Cグループ	Dグループ
<ul style="list-style-type: none">・ ケース①・②は、もともと報徳小がなかった時代に戻るようになるので、徒歩で登校するのは可能ではないか、という話になった。・ バスは、ケース①だと、小学校の周りは狭い道が多いので、バスが通れる道があるか考える必要があるという意見が出た。・ ケース②が、一番いい案ではないかとなった。理由としては、中学校は徒歩と電車利用だけで通学が可能だからである。・ ケース③・④は、いずれも通学距離が遠くなるので、今の小学校の位置に低学年分校を作ってはどうか、という意見が出た。	<ul style="list-style-type: none">・ ケース①・②については、中学校の配置の関係で、端の子は登校に時間がかかるため厳しいのではないかという意見が出た。・ <u>スクールバスの問題点として、そもそも通れる道があるのか。朝は道が混むので遅刻しないか。お金がかかるのではないか。</u>といった点が挙げられた。・ 遅刻については、仕方がない。時間帯については、部活の時間帯に合わせる。・ 問題点として、送迎時間帯に、学校の前が混んでしまうので、近隣住民の迷惑となるのではないか、といった意見も出た。・ 他の交通手段として、タクシーや小学校低学年は親による車の送迎でもいいのではないか、という意見が出た。

第4回

「子供たちにとって望ましい「新しい学校」を考えよう！」

- ◆開催日時 令和6年12月16日(月)19:00～20:45
- ◆開催場所 小田原アリーナ 研修室

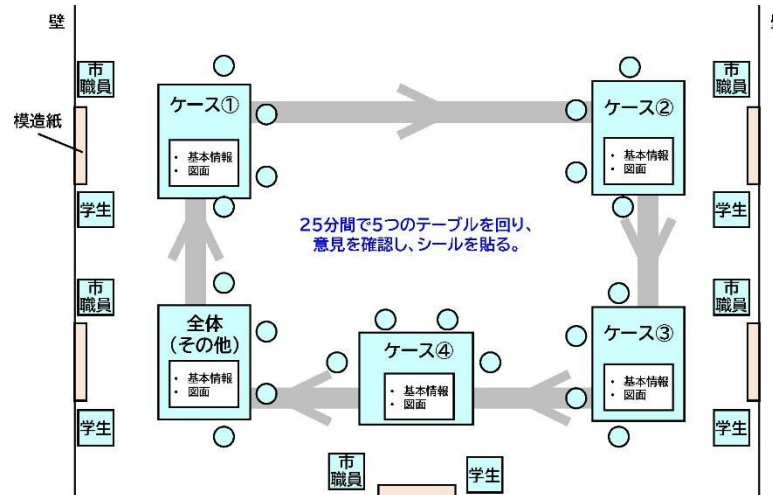
グループワーク①

4つのケースごとに今までに出た意見を整理した資料を壁に掲示しているの、それを見て、各ケースの内容を確認する

●ケースごとの意見

ケース1 報徳小を桜井小・富水小に分離統合/中学校は地域の中央にある報徳小に配置

	資料・現状から読み取れること (事務局追記)	いい点	課題	アイデア
学校規模・学校配置	・小学校は、中学校の... ・中学校は、小学校の... ・中学校は、小学校の...	・新しいという	・種類によって分かれて... ・中学校の規模が... ・小学校の規模が...	
通学	・中学校の範囲が... ・中学校の範囲が...	・通学が楽になる... ・通学が楽になる...	・通学が楽になる... ・通学が楽になる...	・通学が楽になる...
地域との関わり	・中学校の範囲が... ・中学校の範囲が...	・地域との関わりが... ・地域との関わりが...	・地域との関わりが... ・地域との関わりが...	
施設・費用	・中学校の範囲が... ・中学校の範囲が...	・施設・費用が... ・施設・費用が...	・施設・費用が... ・施設・費用が...	



重要と思う意見に●シールを貼る

グループワーク ① 重要と思う意見にシールを貼ろう!

ケース② 報徳小を桜井小に、城北中を泉中に集約(分離前の姿に)

25分

	資料・現状から読み取れること (事務局追記)	いい点	課題	アイデア
学校規模・学校配置	・小学校は、中学校の... ・中学校は、小学校の... ・中学校は、小学校の...	・新しいという	・種類によって分かれて... ・中学校の規模が... ・小学校の規模が...	
通学	・中学校の範囲が... ・中学校の範囲が...	・通学が楽になる... ・通学が楽になる...	・通学が楽になる... ・通学が楽になる...	・通学が楽になる...
地域との関わり	・中学校の範囲が... ・中学校の範囲が...	・地域との関わりが... ・地域との関わりが...	・地域との関わりが... ・地域との関わりが...	
施設・費用	・中学校の範囲が... ・中学校の範囲が...	・施設・費用が... ・施設・費用が...	・施設・費用が... ・施設・費用が...	

- グループワーク
- 各ケースで出した意見を読み込み、
 - 各テーブルにあるケースごとの横造紙に、重要だと思う意見にシール(●)を貼る。
 - “重要”とは、例えば
 - 必ずクリアしたいこと
 - 大きなメリット
 - このケースの特徴
 - など
 - 各テーブルで貼ることができるシールは5枚。1つの意見に複数貼ってもOK。

●ケースごとの意見

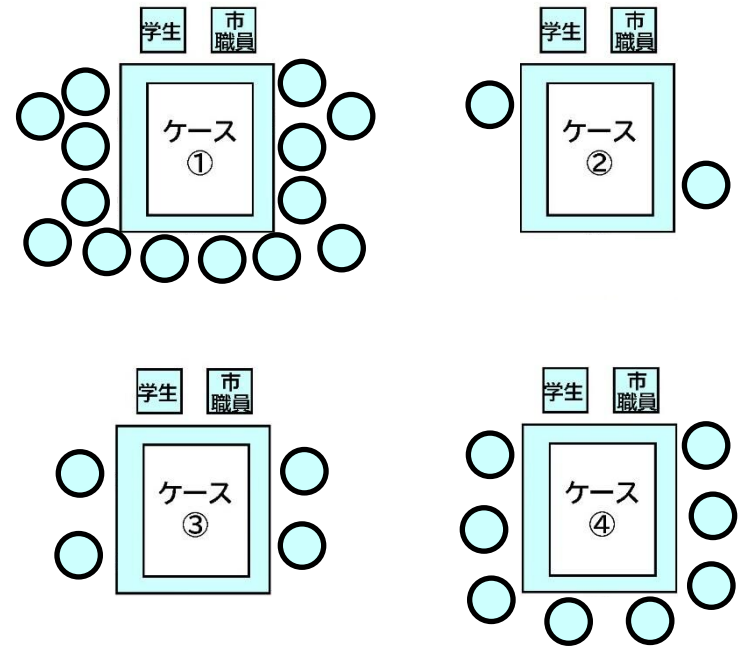
ケース3 城北中学校を小中一貫校へ

	資料・現状から読み取れること (事務局追記)	いい点	課題	アイデア
学校規模・学校配置	・小学校は、中学校の... ・中学校は、小学校の... ・中学校は、小学校の...	・新しいという	・種類によって分かれて... ・中学校の規模が... ・小学校の規模が...	
通学	・中学校の範囲が... ・中学校の範囲が...	・通学が楽になる... ・通学が楽になる...	・通学が楽になる... ・通学が楽になる...	・通学が楽になる...
地域との関わり	・中学校の範囲が... ・中学校の範囲が...	・地域との関わりが... ・地域との関わりが...	・地域との関わりが... ・地域との関わりが...	
施設・費用	・中学校の範囲が... ・中学校の範囲が...	・施設・費用が... ・施設・費用が...	・施設・費用が... ・施設・費用が...	

● 重要と思う意見 ● あてはまらないと思う意見

グループワーク②

自分が一番良いと思うケースのテーブルに移動し、なぜそのケースが良いと思った、などについて意見交換



重要と思われた意見について、内容の掘り下げや追加の意見を記入する

グループワーク ② シールの貼られた横造紙を見ながら意見交換

ケース② 報徳小を桜井小に、城北中を泉中に集約(分離前の姿に)

30分

	資料・現状から読み取れること (事務局追記)	いい点	課題	アイデア
学校規模・学校配置	・小学校は、中学校の... ・中学校は、小学校の... ・中学校は、小学校の...	・新しいという	・種類によって分かれて... ・中学校の規模が... ・小学校の規模が...	
通学	・中学校の範囲が... ・中学校の範囲が...	・通学が楽になる... ・通学が楽になる...	・通学が楽になる... ・通学が楽になる...	・通学が楽になる...
地域との関わり	・中学校の範囲が... ・中学校の範囲が...	・地域との関わりが... ・地域との関わりが...	・地域との関わりが... ・地域との関わりが...	
施設・費用	・中学校の範囲が... ・中学校の範囲が...	・施設・費用が... ・施設・費用が...	・施設・費用が... ・施設・費用が...	

- グループワーク
- 以下のテーマで意見交換
 - 重要な意見が多かったものの掘り下げ
 - なぜこのケースが良いと思ったのか
 - など
 - 追加が必要なものは付箋に記入し、対応する欄に貼っていく。

ケース2 報徳小を桜井小に、城北中を泉中に集約(分離前の姿に)

	資料・現状から読み取れること (事務局追記)	いい点	課題	アイデア
学校規模・学校配置	・小学校は、中学校の... ・中学校は、小学校の... ・中学校は、小学校の...	・新しいという	・種類によって分かれて... ・中学校の規模が... ・小学校の規模が...	
通学	・中学校の範囲が... ・中学校の範囲が...	・通学が楽になる... ・通学が楽になる...	・通学が楽になる... ・通学が楽になる...	・通学が楽になる...
地域との関わり	・中学校の範囲が... ・中学校の範囲が...	・地域との関わりが... ・地域との関わりが...	・地域との関わりが... ・地域との関わりが...	
施設・費用	・中学校の範囲が... ・中学校の範囲が...	・施設・費用が... ・施設・費用が...	・施設・費用が... ・施設・費用が...	

東富水・富水・桜井地域の「新しい学校づくり」を考えるワークショップ

子供たちにとって望ましい「新しい学校」を考えよう！

第4回

日程：2024年12月16日
時間：19：00～21：00
場所：小田原アリーナ

● 第4回ワークショップ

第4回のグループワークは「子供たちにとって望ましい「新しい学校」を考えよう！」をテーマに行いました。まず、事務局より前提となる児童生徒数の推計と校舎の築年数と建替え等のルールを説明しました。その後、4つのケースについて、今までに挙がった意見を見ながら、ケースごとに重要と思う意見にシールを貼った後、自分が良いと思うケースに集まって意見交換を行いました。

プログラム	
1. 開会	<ul style="list-style-type: none">主催者 & ファシリテーターあいさつ今後のワークショップの進め方について
2. 現状の説明	<ul style="list-style-type: none">防災・防犯に関して自治会が担っている役割(自治会代表と対談方式)防災・防犯に関して全市的な決まり、ルール・仕組
3. グループワーク	<ul style="list-style-type: none">学校と地域(自治会)のつながりについて、良い点、課題、より良くするためのアイデアを出し合う前回の配置案を見ながら「地域とのつながり」という視点で意見交換
4. 発表・意見交換	<ul style="list-style-type: none">グループごとに発表ファシリテーターからのコメント

● グループごとの主な意見

ケース①

- 小学生の通学距離が変わらず安全性が高い。
- 中学校の場所が真ん中なので、地理的に偏りがなく、バランスが良い。

ケース②

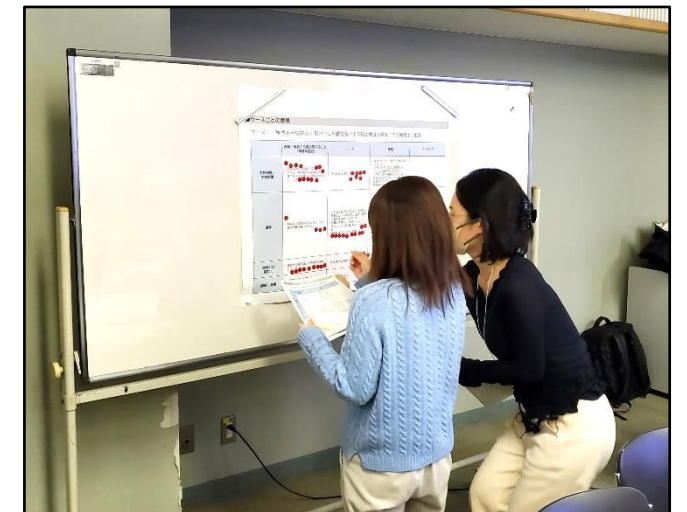
- 桜井小や泉中が駅の近くなので、電車通学を利用しやすい。(バスなしで通学できる)
- 駐車場等を確保することで、車も活用できる。

ケース③

- 新しいことに挑戦できたり、異学年交流ができ、縦のつながりができる。
- 人間関係のリセットができないが、社会に出ると異なる世代との交流は不可欠であり、先に経験することができる。

ケース④

- どちらも小中一貫校となるため地域として平等。
- 中学校の位置が変わらない。
- 異学年交流による成長が見込める。



● ファシリテーターのまとめ

- 地域全体に係る意見としては、小中一貫校は異学年交流ができるところが良い点だということと、通学距離や避難所の配置が重要とされている。
- 発表した内容は、意見交換のほんの一部なので、各ケースで掘り下げた意見を事務局で整理し、報告会等で共有することが大切。

● 今後の予定

【報告会】

日程：2025年2月4日(火) 午後2時
場所：城北タウンセンター いずみホール
内容：各回の実施内容と、4つのケースに関する検討内容の報告

●ケースごとの意見

共感する意見 : 98
 共感できない意見 : 2
 合計 : 100

ケース1 報徳小を桜井小・富水小に分離統合／中学校は地域の中央にある報徳小に配置

	資料・現状から読み取れること (事務局追記)	いい点	課題	アイデア
<p>学校規模・ 学校配置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●●●●●●●●●● ●●●●●●●●●● ●●●●●●●●●● ●●●●●●●●●● <p>小学校3校 中学校1校 全ての小中学校が12学級以上 連合自治会区域と小学校区が対応している</p>	<p>形はよいと思う ●●●●●●●●●●</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 報徳小の子ども達はどう分かれていくのか ⇒それを考えるのは規模が小さい。全体を考えるべき。 ● 中学校1校が報徳小のところにできることになるが、その周辺は人口減少エリアなので、そこに中学校を統合をしても意味があるのか ●●●●●●●●●● 	
<p>通学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 中学校が地域の中心となるため、通学距離の偏りが少ない ●●●●●●●●●● 	<ul style="list-style-type: none"> ● もともと報徳小がなかった時代に戻ることになるので、徒歩で登校するのは可能ではないか ● 距離は問題ない(変わらない)、遠いところでも自転車でカバーする ● 学区は歩いていける距離 ●●●●●●●●●● 	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通はどうするのか。 ●●●●●●●●●● ● 片側に中学校が偏ると、遠くなる生徒が出てくる ●●●●●●●●●● ● 中学生が遠くなる (泉中からは遠い) ● 小学校の周りは狭い道が多いので、バスが通れる道があるか考える必要がある ●●●●●●●●●● ● 中学校の配置の関係で、端の子は登校に時間がかかるため厳しいのではないかと ●●●●●●●●●● ● 天候によって問題が出るかもしれない ●●●●●●●●●● ● 学区内の通学路で交通量が増えている(歩道の整備が必要) ● 仙了川沿いには歩道がない ●●●●●●●●●● 	<ul style="list-style-type: none"> ● 巡回バスを出す ●●●●●●●●●● ● ⇒コスト面が問題となる ● 公共交通やスクールバスを利用する(数か所に停まってもらう) ●●●●●●●●●●
<p>地域との 関わり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 連合自治会区域と小学校区が対応している ●●●●●●●●●● 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会として動きやすい ●●●●●●●●●● 		
<p>施設・費用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校1校、中学校1校の改築費が発生しない ●●●●●●●●●● 	<ul style="list-style-type: none"> ● 経費がかからない ●●●●●●●●●● 		

●ケースごとの意見

共感する意見 : 83
 共感できない意見 : 17
 合計 : 100

ケース2 報徳小を桜井小に、城北中を泉中に集約（分離前の姿に）

	資料・現状から読み取れること (事務局追記)	いい点	課題	アイデア
<p>学校規模・ 学校配置</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小学校3校 中学校1校 全ての小中学校が12学級以上 分離前に戻ることになる 連合自治会区域と小学校区が対応している 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会区と同じ配置になる 	<ul style="list-style-type: none"> 古い形に戻すのはあんまり良い方向ではない 中学校1校は厳しいのではないかな 	
<p>通学</p>	<ul style="list-style-type: none"> 特に中学校で、通学距離の偏りが大きい 	<ul style="list-style-type: none"> もともと報徳小がなかった時代に戻るようになるので、徒歩で登校するのは可能ではないか 中学校は徒歩と電車利用だけで通学が可能 泉中は螢田駅から行ける（電車利用ができる） 	<ul style="list-style-type: none"> 報徳小辺りに学校がなくなるので、大勢の子供達が遠くまで通うのはどうなのか 通学距離が遠い 小学校が歩ける距離はどのくらいか？熱中症対策も必要 中学校の配置の関係で、端の子は登校に時間がかかるため厳しいのではないかな 富水駅は学校から距離がある 	<ul style="list-style-type: none"> 荷物が多い送迎を可とするなど対策→駐車場足りてない！確保する 電車（金銭面）、自転車通学を考える。 徒歩ではない方法を考える。
<p>地域との 関わり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 連合自治会区域と小学校区が対応している 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会として動きやすい 		
<p>施設・費用</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小学校1校、中学校1校の改築費が発生しない 			<ul style="list-style-type: none"> 報徳小の跡地活用として不登校の人の施設にはどうか 報徳小の再編後は施設開放（体育館とか）をしてほしい 報徳小の今ある場所を活かせる⇒公民館や避難所として活用、学校の機能を一部残す

	いい点	課題	アイデア
学校規模 ・ 学校配置	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを守る手段として通学方法とパトロール 	<ul style="list-style-type: none"> 学級数の適正は本当に2~3クラスなのか 人口の減少で人口密度も低くなっている 規模の評価が「クラス替えができるように」という内容で良いのか 文科省の規定では中学校2学級も適正ではないのでは 20年後、小学校で3クラスは無理ではないか 報徳小の子ども達がどう分かれていくのか 県道で学区を分けてしまっていて分け方がよくない 自治会と学区を合わせて考えていく必要がある 自治会がまたがっていることによる連携の難しさ 統合して人数が増えたと不登校なども増加すると思う 子供が関わるのが苦手になっている(コミュニケーションが出来ない) 	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係の固定化にならないように。教員にとっても働き方改革のためにも。 昔の学区に戻してみるのはいかがでしょうか 中学校・小学校も真ん中に1つでよい。箱根町だってバスを出している 中学校11校に合わせて、小中一貫校を11校作る コロナで縮小した行事などを少しずつ再開などしていく こども食堂のような不登校の子たちが来やすい場所(大学生が手伝いに来るような)
教育・ 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 教員数は少人数でもそれほど大きく仕事が変わらない 小中一貫は9学年の交流ができる 地域の伝統を学べる 学校環境整備へのボランティア 	<ul style="list-style-type: none"> 現時点でも、校長先生の負担が大きすぎる。 地域が提案するイベントも校長先生がOKと言わないとできない。 コロナにおける修学旅行の実施でさえも校長先生の判断に委ねられた。行ける子供とそうじゃない子供が出るのは不公平。 修学旅行の判断を校長先生に委ねると保守的になりやすいのでは 市、教育委員会として統一して、方針を示してほしい時がある 学級数ではなく、学校の人数によって教頭先生の数を変えるなど、子供の数に応じた教職員の数の単位を統一してほしい 今は学級数で考えているが、固定メンバーで学習する以外にも考えていかねばならない 世代間交流も考えていかねばならない 「学級数」だけの議論も危険。これからの時代、固定されたメンバーによる「学級」がどれだけ必要となるのか疑問 小中一貫教育について、人間関係が小中で固定してしまうことへの不安 小中一貫だとより効果的なプログラムを組むことができるということは一般論としてあるが、親の気持ちとしては人間関係が固定されたときに不安がある 不登校児などでは学校とつながらない可能性がある。 コロナ前の教育活動に戻したい 地域の人と先生のどっちを信じるか⇔環境が必要(子どもが考える) PTAに入っていないと行事に参加できない。 PTAは任意なので入らない家庭もある。 PTAなり手がいない 学校ばなれ(コロナで少人数) 	<ul style="list-style-type: none"> 小・中の運動会をまとめるのはやめてほしい 多様な学びのスタイルを! 学区を選べるようにする。(地域活動に支障が出る) 学校の特徴の話はどうか。例えばスーパーサイエンス小学校など 魅力ある学校をドーンっと作るとよい 子どもを入れたいという学校へ 小中一貫で4年/5年で分けるなどのアイデアもある 地域の人・活動をカリキュラムに組み込む 公民館の要素+学校 学校の活動を発表する場をつくる PTA本部に入ってよりよくする活動にしてい 学校って楽しいと思えるような活動 地域の特性をいかした活動を取り入れていく 給食費を無料にする 園児が小学校を入学前に体験できるようにする 学区に関係なく学区外のの学校へ転入できるようにする
通学	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを守る手段として通学方法とパトロール 	<ul style="list-style-type: none"> 県道は歩道がないので、自転車通学は危険 富水の小学校の学区はすでにかなり大きい。徒歩20分と記されているが、子供たちの足ではそれ以上の負担がかかっている。これ以上上げるのは現実的ではない。 支援学校のバスにも苦情がある。運転手もいない。 昔は白山まで歩いた 結局駅まで歩くなら遠い 保護者のバス代の負担、親による車での送迎の負担 天候の変化も大きくなってきて登下校が心配 南側(泉中側)は下校時間を考えると部活をやるのが難しい 踏切が閉まると詰む 朝の通学時間はめっちゃくちゃ渋滞する 今のままではスクールバスが学校の中に入れないのではないのか 1日の通学時間、生活のほとんどとなりもったいない。習い事をあきらめることもある 6年生の2kmと1年生の2kmは同じではない。6年生なら大丈夫。1年生はきつい? 	<ul style="list-style-type: none"> 電車がなかったので、新駅を作ればよい。 多様性社会の観点から、自転車/バスなどの手段は個々に希望を聞いてほしい スクールバスなら遅刻しても許されるようにする 民間バス利用(報徳スイミング)を利用

●市・地域への意見

	いい点	課題	アイデア
地域との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会があった方がよい⇒自治会の統廃合は難しい ●●●●● ● 現状でも地域の協力を得られている ● 顔の見える関係、安心 ● 地域のイベントなどで大人を知ることができ、顔見知りが増えることで、防犯効果につながっている。 ● サマーフェスタなど多くの大人のつながりを感じることが出来る ● 親や学校だけでは見れない部分を地域の方に見守っていただける ● 地域の歴史を知ることが出来る ● 地域のイベントなど、子供の活躍の場があるため、成長につながる。 ● PTA、自治会と良好な関係でいろいろな活動ができています。 ● ● 顔と名前がわかる人が増える⇒信頼 ● いろいろなイベントに参加でき、成長につながる。 ● 畑など自然とのふれあいがたくさんある ● 学校が無い時間の居場所 ● PTAの役員の提案が実現できる。 ● 保護者の積極的な活動がある ● 地域の安全について相談できる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域との関わりを実現するために、防犯や管理・運営など、解決しなければならない課題はたくさんある ● 学校を選べるようにすると、地域とのつながりがつらい ● ● 地域の活動に現役世代は参加しづらい ● 自治会の役員が少ないため、負担になっている。 ● 高齢化による役員不足、自治会の中間層がいない。 ● 学区と自治会のずれがあることで連携が難しいところがある。 ● ● 現役世代は平日仕事をしているので、PTAや地域の活動に参加しづらい。 ●● ● PTAに求められていることや自治会に求められていることが変わってきている。 ● 習い事をしている子どもが多い為、地域との関わりが少なくなっている ● ● 自治体に属していないと祭りに出られない ● 統合されるとそれぞれの学校間の差が出てしまう ● 交流が減ったことで内気な子が増えたり、子供の体力や孤立、などの影響が出ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会を変える ● 自治会と統合が必要なのか？自治会は見えないことを支えている。（自治会をどのようにアピールしていくか、新規の住民に対してどう伝えるか） ● 自治会が前提なのがおかしい ⇒新しい未来ある子ども達のことを考えて変えるべき ● ● 生涯学習の視点 ⇒地域に開かれた ⇒防犯の問題 ● 子どものために⇒高齢者のためで考える ● 市や外部との連携で、バックアップ体制をつくる。 ● 自治会と学校を一体として考えずに、人材や資金をわけて考える必要がある。 ● 子ども会が全部子どもに対応することを変えていく ● 改善に向けてはPTA主体の行事(ふれあいフェスタ)や学校の協力が必要。 ● 公民館などを活用して、高校生を巻き込んで学習ボランティアなどできるといい。 ● 若い人のボランティア参加 ● 地区の魅力のアピール ● 大人から積極的にアピールを
災害時の対応	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校は、災害時の避難場所としての役割を果たしている、子供だけでなく、高齢者も遠くまで避難するのは難しい ●●●●● ● 避難所が減ることが無いように、例えば統合後の学校の活用や避難所の開設についても考えるべき ●●●●● ● アンケートでは90%超が地域の防災拠点としての学校の役割を期待している ● 災害時には、地域と連携して連絡網なども活用して非常時の活動がしやすい。 ● 災害時にデータベース（名簿など）あるべき ● ● 災害時・異常時の対応がとりやすい連絡網が活用できる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校の機能はなくても、建物はあってほしい ●●●●● ● 学区と自治会が一緒だと災害時も楽になる ● 防災訓練は学校単位 ●● ● 防災訓練の主催は自治会で運営が大変 ●● ● 学校とつながっていない子にとって学校を中心とした場所が居づらい(災害時とか) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校がなくなるのであれば、地域ごとに代替の場所が必要なのではないか ●●●●● ● 教育・防災の役割を分けて考えることができるのか ●●●●● ● 公民館はたくさんあるが、避難所として運営できるか ●●●●● ● 学校外のコミュニティなどで災害時につながる場をつくる必要がある ●●●●● ● 学校以外のコミュニティ⇒連絡網、災害時のつながりに ●●●●● ● 見守りだけなら家の前に出れば良い⇒地域で協力おじいちゃん・おばあちゃんこそ外にでる⇒高齢者の見守りにもつながる ●●●●●
地域特性	<ul style="list-style-type: none"> ● 報徳周辺は家が建ち始めた ● 報徳の土地に価値を感じて移住する人も多い ● 学校のカリキュラムにない部分を地域から学ぶことができる。 ● PTAが主体となって負担が軽くなるような方法を考えている。 ● いずみふれあい通信⇒地域の予定等が分かる ● 防犯パトロールやイベントなどで地域と学校の関わりができています。 ● 顔見知りが増えることで、防犯効果につながっている。 ● 年代間のリンク・交流が取りやすい ● 昔は怖いおじさんがいた⇒社会のルールを知る機会 ● 地域の子どもを学校と地域で育てる意識 	<ul style="list-style-type: none"> ● 報徳小学校と桜井小学校それぞれに特色があるので、学級数が多い方がいいとは一概に言えない。 ● ● 桜井小周辺は、田を売れなくなった ● 学校がなくなると土地の価値が下がると感じる方もいるかもしれない ● ● 子供の親世代、中間層がない（30～40代）、忙しい、関心がない ●● ● 住人である場所によって地域ごとに生活パターンも文化も違う ●● ● 自治会で情報が入っている学校、入っていない学校がある ●● 	
施設・費用	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校施設を地域のために ● ● 富水小学校の体育館や校庭の使用について年度末迄に各団体が使用する日程を提出する。 ● ● 校舎が広い。 ● ● エアコンのある部屋(教室)を図書館に変更することができた ● 	<ul style="list-style-type: none"> ● インクルーシブ化は膨大な資金が必要 ● 	<ul style="list-style-type: none"> ● 財政の課題があるので、今あるものでどう頑張るかを考えた方が良いのでは ●●●●● ● 学校の再利用の検討 ●●●●● ● 今の教育内容に合わせた学校が必要 ●●●●● ● フリースペースで仕切りながら使う ●●●●● ● どんな学校をつくっていくべきかの議論がある ●●●●● ● 公民館も一緒に作るとよい ●●●●● ● 財政的な面を考えて小中1つずつがよい ●●●●●
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 相互見守り ● 子供の遊びの為の寄付が集まる ● 学校外施設の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新しい学校づくりにおいて、「学校の場所」の重要性は高くないと思うが、なぜそこだけにフォーカスして話をするのか？ ●●●●● ● 「新しい学校づくり」の計画内容が実現可能とはとても思えない。 ●●●●● ● 前提条件によって、配置案の判断が異なる ●●●●● ● 論点を整理する必要がある。分けて検討を！ ●●●●● ● 一番問題がないところの学区からやるのはなぜなのか ●●●●● ● 学校再編だけじゃなくて自治会再編もするべきでは？ ●●●●● 	<ul style="list-style-type: none"> ● 建替え問題を分けて議論したい ●●●●● ● この地区では問題が少ないので他の所で議論した方がいい ●●●●● ● 自治会の協力ありきなのではスタートが時代にあっていない ●●●●● ● 子供たちの遊びが多様化していることを把握したり、子育ての仕方も変わっているために求められていることも変わっていることを共通認識として持つ。 ●●●●●

ワークショップ終了後のアンケート結果

Web:4人
用紙:1人

【質問1】

今回のワークショップについてのご感想を自由にご記入ください。

- 今回のワークショップの報告会が2月4日(火)2時からというのは誰に対しての報告会なのか疑問に感じます。各自治会長さんは時間が作れても、校長先生や保護者は平日の昼間に参加するのは厳しいのではないのでしょうか。
- 今回参加された方に対しての最終的な報告はどのような形でされるのでしょうか？ 又、各自治会のトップや校長先生達を集めて2時間の会議を開くならお茶の1本でも出すのが礼儀ではないのかと感じました。
- 小田原市としての大枠の考えが見えずにスタートした話し合いなので、着地点が見えず難しかったです。そのため、富水・桜井地域について知らない学生がまとめるは難しいと思いました。
- 本事業は必要な取組であると思いますが、全員ボランティアで参加ということを考えると、ワークショップを平日の19～21時に2時間で開催するというのは厳しいのではないのでしょうか。せめて18:30～20:00までの1時間半が限界だと感じました。
- 生徒数の減少がこれほど進むとは考えられませんでした。
- 参加者のメンバーが子供を中心に考えて意見を言っていることに安心しました。
- 学校再編についてもバランス重視のメンバーが多いことに安心しました。
- このワークショップの話し合いが少しでも20年後の役に立ちますように。

ワークショップ終了後のアンケート結果

Web:4人
用紙:1人

【質問2】

小田原市の「新しい学校づくり推進事業」について、ご意見等を自由にご記入ください。

- 新しい学校に関して、「ケース1」以外は考えられないと思っています。子供のことを考えると小中一貫はリスクが有りすぎますし、友達のリセットは必要。心身の成長は中学校の統合だけで十分だと思います。
- 第4回のワークショップで自分が一番良いと考えたグループには校長先生が多数居ました。子供たちを一番近くで見ている先生がこのケースが一番良いと評価したのは大きな意味があると思います。
- 子供たちが学びやすい環境を一番良い形で実現してくれることを願います。
- 学校、地域と様々な角度から考えなければならない大きな課題ですが、まずは子供を真ん中において「子供の笑顔のために」が1番だと思います。どんなことがあってもまわりの大人たちが分断することがないような推進を望みます。
- このモデル地区の協議結果が全市での協議に役に立つことを祈っています。また、今回はモデル地区の協議なので発言しませんでした。小中一貫校を市として考えているならば、まずは小中一貫校そのものについて議論して市民に必要性を理解してもらうことから始めるべきと考えます。
- 今後、本格的な協議に入るのであれば、いきなり丸投げではなく、市としての学校配置の具体的ビジョンを示す必要があると思います。なんの原案もなく「みなさんどうですか？」では全く進まないと思います。
- 今後の協議が未来のより良い小田原の学校につながることを祈っています。
- スクールバスを採用する場合は、小田原市としても高齢者の買い物難民を解決するために、コミュニティバスの運用を考える必要があると思います。効率重視で考えるとコストは削減されます。
- 避難所について、報徳小学校跡地に中学校が建設されれば問題ないが、建設されないパターンの場合は、避難できない高齢者が多くなり問題があると思います。新設される校舎にはエレベーターは必須と考えます。
- 小田原市の街づくり計画も含めて話し合いをした方が、案が出やすい気がする。漠然とした1回目の時に感じました。

ワークショップの振り返り

通学

- 通学距離については、通学時間より実際に小学生が感じている距離はもっとあるのではないか。
- 小学6年生の2kmと、小学1年生の2kmは大きな差がある。
- この地域は、朝夕の渋滞が激しい(特に県道)。
- 中学生は、自転車通学とすることも考えられるが、歩道が少ないところも多く、安全面が課題。
- スクールバスを導入する場合は、利用しない時間帯は地域の高齢者などが使えると良い。
- 今の学校では、バスや送迎車両が入るスペースが少ない。

小中一貫

- 小中一体となることにより、特色ある教育ができるのではないか。
- 児童生徒数を維持することができ、整備費や維持管理費などのコストを抑えることができる。
- ケース④の場合、通学距離が遠くなる。
- スクールバスを小中共用することができる。
- 小中一貫校を運営するのと小学校・中学校をそれぞれ運営するのは全く違う(校長の人数など)。
- 小中一貫校はリスクが高い。人間関係のリセットや持たれている印象のリセットをするチャンスがなくなってしまう。

地域と学校

- 学校活動は、地域の方の協力によって行われているところが多い。
- 学区と自治会区域が揃っている方が、各種活動や避難所運営等で連携しやすくなる。
- 学区については、自治会ありきで考えなくてもいいのではないか。
- 自治会の協力ありきになっているところが多い。どのようにすれば、これからの時代にあわせたPTAや自治会の役割が果たせるか、考えていかなければいけない。
- 地域と学校が連携することで、連絡網の活用など、非常時の活動がしやすくなる。また不登校などの子供に関しては、災害時に問題が生じてしまうことが考えられるため、学校以外のつながりをつくることで、災害時のコミュニティとの連携につながる。
- 学校がなくなることで避難所が遠くなると、子供やお年寄りが避難するのが難しい。避難所が減ることがないようにしてほしい。

前提

- 有識者会議などで、まず、学校の現状や適正規模などの全体像を示し、その上で地域の配置案を示した方がいいのではないか。
- 現在、「新しい学校づくり検討委員会」でこれらの検討を進めており、来年度中を目途に、「新しい学校づくり推進基本計画」として、現状と課題を踏まえた学校の望ましい規模とそれを踏まえた地域の学校配置を提示する予定です。
- 今回は、学校配置を地域の中で検討していく際に「どのような進め方が考えられるか」を検証するために、モデルとして検討していただきました。
- 基本計画策定後に、改めて、市としての前提を踏まえた案を提示し、今回のワークショップの成果も反映させながら検討を進めたいと思います。

前提

- 「新しい学校づくり」の目指している内容が実現可能とはとても思えない。実現できる前提として話し合いを進めて良いのかが疑問。
- 市全体としては、実現できるよう取組を進めていきます。
- 実現に向けて、地域の中でどのような課題などがあるか、それを解決するにはどうしたらいいか、を話し合う場となることを想定しています。

前提

- 20年後のことはそこまで考えなくていいのではないか。
- 学校配置の見直しから改築・改修が完了するまで、早くても10年以上かかり、それを全市的に進めていく必要があることから、今の時点から10年、20年後のことを想定して検討しています。

前提

- 話し合うにあたって論点が多すぎる。老朽化/少子化/教育内容に分けて話し合いたい。
- 新しい学校づくりの検討は、論点とそれに関連する情報量が非常に多いことから、今後同様のワークショップ等を行う際には、前提となる情報の説明や意見交換等を事前に丁寧に行ってから実施したいと思います。